

平成30年度

地方独立行政法人福岡市立病院機構に
係る業務実績に関する評価結果報告

福 岡 市

目 次

はじめに	1
第1項 全体評価	2
第2項 項目別評価	4
(1) 大項目評価	
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	4
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	6
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	7
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	8
(2) 小項目評価	
福岡市立病院機構の概要	13
全体的な状況	15
項目別の状況	22
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 医療サービス	22
2 患者サービス	40
3 医療の質の向上	48
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	58
2 事務部門の機能強化	60
3 働きがいのある職場環境づくり	62
4 法令遵守と公平性・透明性の確保	64
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 経営基盤の強化	66
2 収支改善	72
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	
1 福岡市立こども病院における医療機能の充実	84
2 福岡市民病院における経営改善の推進	86
第5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	88
第6 短期借入金の限度額	91
第7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	91
第8 剰余金の使途	91
第9 地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項	92
〈参考資料〉	
○地方独立行政法人福岡市立病院機構 業務実績評価の方針	93
○地方独立行政法人福岡市立病院機構 年度業務実績評価実施要領	95

はじめに

福岡市は、地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、地方独立行政法人福岡市立病院機構の平成30年度における業務実績の全体について総合的に評価を実施した。

評価に際しては、地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会において、評価に関する意見を聴取し、平成30年6月22日に決定した「地方独立行政法人福岡市立病院機構評価の方針」及び「地方独立行政法人福岡市立病院機構年度業務実績評価実施要領」に基づき評価を行った。

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会 委員名簿

	氏 名	職 名
委員長	寺 坂 禮 治	福岡市医師会 副会長
副委員長	福 田 治 久	九州大学大学院医学研究院 准教授
委 員	藤 也 寸 志	独立行政法人国立病院機構九州がんセンター 院長
	大 和 日 美 子	福岡県看護協会 会長
	行 正 晴 實	公認会計士

第1項 全体評価

評価結果及び判断理由

〈評価結果〉

第3期中期目標期間の2年目である平成 30 年度の業務実績に関する評価については、小項目評価の結果を踏まえ、第1の大項目評価は「評価A」、第2、第3及び第4は「評価B」となる。

この大項目評価の結果を踏まえ、両病院ともに、医療水準のさらなる向上を目指し、医療機能の強化や経営の効率化等に取り組んでいることなどから、平成 30 年度の業務実績は、「中期計画の実現に向けて計画どおり進んでいる」と評価する。

〈判断理由〉

福岡市から独立した法人として、理事長を中心に、両病院と運営本部が一体となった経営体制を構築し、運営管理の徹底を図っている。

福岡市立こども病院においては、これまで培ってきた小児医療及び周産期医療のさらなる充実を図るとともに、病床再編を実施するなど患者ニーズや医療環境の変化に即した診療体制の見直し等を行っている。

福岡市民病院においては、4疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病)への対応を中心に高度専門医療のさらなる充実を図るとともに、救急医療体制及び感染症医療機能の充実等を行っている。

経営収支面では、人員の適正配置等により、病床利用率の向上や手術件数の増加が図られるとともに費用削減にも取り組んだ結果、当期純利益が、福岡市立こども病院において、11億4,300万円余、福岡市民病院において3,800万円余となっており、経営基盤の強化が順調に図られている。

全体評価にあたって考慮した内容

〈特筆すべき取組み〉

〈福岡市立こども病院〉

- ・NICU(新生児集中治療室)及びGCU(回復治療室)の病床再編や重症アレルギー患者を対象に負荷試験を開始するなど、効率的な病床稼働へ向けた取組みを進めた。
- ・「福岡県小児等在宅医療推進事業」の拠点病院として、退院前・退院後の患者宅への訪問による自宅の環境調整などに取り組んだ。
- ・HCU(高度治療室)への保育士配置や外来フロアにて無料Wi-Fiのサービスを開始した。
- ・「インターンシップ・病院説明会」の開催の増加やSNSを活用した人材募集などに取り組んだ。
- ・重症患者の多いPICU(小児集中治療室)に専任の薬剤師を配置したほか、HCUにも薬剤師を配置し、ハイリスク薬の監査や中心静脈栄養の輸液調整などを実施した。

〈福岡市民病院〉

- ・脳卒中領域において、発症後早期のt-PA療法(血栓溶解療法)や血栓回収療法等の血管内治療や外科的治療など、急性期の治療を包括的に実施した。
- ・救急専門医の増員とシフト制勤務の導入、夜間看護補助者増員による看護体制の充実や夜勤看護師の負担軽減などに取り組んだ。
- ・医療安全対策の地域連携の開始や医師の医療安全に対する意識向上に重点的に取り組んだ。

評価にあたっての意見, 指摘等

《福岡市立こども病院》

・収益が年間で8億円増というのはかなりの実績であり, また, これだけの当期純利益を出していることは素晴らしい。

・症例数が全国で上位にあるものが多いことは素晴らしい。

・中期目標期間業務実績評価の際には, 期間中高い評価があったことも重視していただきたい。

《福岡市民病院》

・逆紹介率が非常に高く, 新規入院患者数の増や医師会からの高い評価にもつながっている。

《両病院》

・数値を明確に出していただくと評価しやすい。クリニカルパスの使用率など数値化できるものはもっとあると思う。これらの積み上げが進捗状況を示す客観的なデータとなるので, できるだけ数値化することを検討していただきたい。

第2項 項目別評価

(1) 大項目評価

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

① 評価結果 A (計画以上に進んでいる)

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある(特に認める)	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり進んでいる(100%以上 120%未満)	やや遅れている(100%未満)	重大な改善すべき事項がある(特に認める)
【 127 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計)／b 標準点×100) ※小数点以下切捨て				
両病院が、高度専門医療における診療機能の強化・充実を図るとともに、地域医療への貢献や推進を積極的に行っている。多数の項目で目標を上回る成果を上げており、計画以上に進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項 目		評価	ウエイト	ウエイト換算	
1 医療サービス	(1) 良質な医療の実践	こども病院	4	2	8
		市民病院	4	2	8
	(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進	こども病院	4	2	8
		市民病院	4	2	8
	(3) 災害時等の迅速かつ的確な対応	3	1	3	
2 患者サービス	(1) 患者サービスの向上	こども病院	4	2	8
		市民病院	3	2	6
	(2) 情報発信	3	1	3	
3 医療の質の向上	(1) 病院スタッフの確保と教育・研修	こども病院	4	2	8
		市民病院	4	2	8
	(2) 信頼される医療の実践	こども病院	4	2	8
		市民病院	4	2	8
合計			22	a 84	
標準点(※全ての小項目評価が3)			b 66		

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

「1-(1) 良質な医療の実践 ア福岡市立こども病院」

○一部の指標で目標値を下回っているものの、NICUを増床したうえでの病床利用率の向上、HCU重症アレルギー患者の負荷試験の開始などを評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(1) 良質な医療の実践 イ福岡市民病院」

○一部の指標で目標値を下回っているものの、専門性の高い手術件数の大幅な増加、救急搬送件数が過去最高などを評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ア福岡市立こども病院」

○一部の指標で目標値を下回っているものの、「福岡県小児等在宅医療推進事業」において、退院前後の患者宅訪問件数の増加、「福岡県母体搬送コーディネーター事業」の受入実績の向上などを評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 イ福岡市民病院」

○全ての指標で目標値を上回っており、特に、初診紹介患者数の増加、一般病院の中で高い水準の逆紹介率、脳卒中連携パス使用実績が市内急性期病院で最多なども評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「2-(1) 患者サービスの向上 ア福岡市立こども病院」

○小児専門病院で導入事例が少ないHCUへの保育士配置、外来フロアの無料Wi-Fiの新規設置、退院時アンケートの高い水準を維持した目標達成などを評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「3-(1) 病院スタッフの確保と教育・研修 ア福岡市立こども病院」

○「インターンシップ・病院説明会」の開催の増加やSNSを活用した人材募集などの取組みにより、看護師の採用において応募者が増加し倍率が上昇したことを評価し、年度計画を上回って実施していると判断し「評価4」とする。

「3-(1) 病院スタッフの確保と教育・研修 イ福岡市民病院」

○救急専門医の増員とシフト制勤務の導入、夜間看護補助者増員による看護体制の充実や夜勤看護師の負担軽減などの取組みを評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「3-(2) 信頼される医療の実践 ア福岡市立こども病院」

○一部の指標で目標値を下回っているものの、クリニカルパス普及活動によるパス使用率の向上、小児専門病院で導入事例が少ないPICU、HCUへ専任薬剤師配置、食物アレルギー患者への栄養指導の高い実績、などを評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「3-(2) 信頼される医療の実践 イ福岡市民病院」

○一部の指標で目標値を下回っているものの、福岡市民病院が主体となった医療安全対策の地域連携の開始、インシデント報告件数のうち望ましいとされる割合を超える医師報告件数の実績などを評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

<p>《福岡市立こども病院》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病床再編により適正化され、質という観点では良い方向に向かった。 ・特定行為研修はワークシェアリングやタスク・シフティングで役に立っている。本来は看護師がタスク・シフティングのパートナーであるべきで、ここを頑張らないと働き方改革は進まない。 ・特定行為の看護師の養成が進んでいない。医師と共に働ける看護師の育成を考えているので、養成を検討していただきたい。 <p>《福岡市民病院》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・逆紹介率が非常に高く、新規入院患者数の増や医師会の高い評価につながっている。 ・1日当たりの外来患者の指標については、昨今の医療政策として、地域に返していこうという流れなので、指標が下がったとしても良質な医療を実践していないわけではない。そもそも指標として適切かということもあり、ネガティブな評価につながるものではない。 ・看護補助者を確保しにくい状況にある中で増員した点は高く評価できる。
--

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

① 評価結果 B (おおむね計画どおり進んでいる)

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある(特に認める)	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり進んでいる(100%以上 120%未満)	やや遅れている(100%未満)	重大な改善すべき事項がある(特に認める)
【 100 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計) / b 標準点 × 100) ※小数点以下切捨て				
地方独立行政法人の特長を生かした自律的・機動性の高い病院経営が行われている。職場環境づくりの改善にも積極的に取り組むとともに、法令に基づき内部統制も適正に維持されていることから、おおむね計画どおり進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項目	評価	ウエイト	ウエイト換算
1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	3	1	3
2 事務部門の機能強化	3	1	3
3 働きがいのある職場環境づくり	3	1	3
4 法令遵守と公平性・透明性の確保	3	1	3
合計		4	a 12
標準点(※全ての小項目評価が3)		b 12	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

特になし。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

・RPA(ロボットによる業務自動化:Robotic Process Automation)の取組みは、業種によってはうまくいかないようだが、成功していただきたい。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

① 評価結果 B (おおむね計画どおり進んでいる)

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある (特に認める)	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり進んでいる (100%以上 120%未満)	やや遅れている (100%未満)	重大な改善すべき事項がある (特に認める)
【 112 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計)／b 標準点×100) ※小数点以下切捨て				
両病院とも増収対策や費用削減に取り組み、当期純利益を確保するとともに、経常収支比率をはじめとする経営3指標が目標値を達成したことなどから、おおむね計画どおり進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項 目		評価	ウエイト	ウエイト換算	
1 経営基盤の強化	(1)経営基盤の強化と運営費負担金の縮減	こども病院	4	2	8
		市民病院	3	2	6
	(2)投資財源の確保	3	1	3	
2 収支改善	(1)収益確保	こども病院	4	2	8
		市民病院	3	2	6
	(2)費用削減	3	2	6	
合計			11	a 37	
標準点(※全ての小項目評価が3)			b 33		

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

「1-(1) 経営基盤の強化と運営費負担金の縮減 ア福岡市立こども病院」
 ○全ての指標で目標値を上回っており、特に、経常収支比率は全国の小児専門病院の中で高い水準にあることなどを評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「2-(1) 収益確保 ア福岡市立こども病院」
 ○一部の指標で目標値を下回っているものの、入院収益の大幅な増加、当期純利益が過去最高となったことなどを評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

④評価にあたっての意見、指摘等

・福岡市立子ども病院の収益が年間で8億円増というのはかなりの実績であり、また、これだけの当期純利益を出していることは素晴らしい。

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

① 評価結果 B（おおむね計画どおり進んでいる）

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある (特に認める)	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり進んでいる (100%以上 120%未満)	やや遅れている (100%未満)	重大な改善すべき事項がある (特に認める)
【 116 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計)／b 標準点×100) ※小数点以下切捨て				
福岡市立子ども病院においては、医療機能の充実を図るとともに、症例数で順調な成果を挙げていること、また、福岡市民病院においては、診療体制や医療機能の充実により収益確保に努めるとともに、救急搬送の受入強化など地域の基幹病院としての役割を果たしていることなどから、おおむね計画どおり進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項 目	評価	ウエイト	ウエイト換算
1 福岡市立子ども病院における医療機能の充実	4	2	8
2 福岡市民病院における経営改善の推進	3	2	6
合計		4	a 14
標準点(※全ての小項目評価が3)		b 12	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

「1 福岡市立子ども病院における医療機能の充実」
 ○川崎病センターの症例数や先天性心疾患に係る手術症例数が、3年連続全国一となったほか、股関節先天性疾患など他の5つの疾患で全国トップレベルの成果を挙げたことを評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

・福岡市立子ども病院における症例数が全国でも上位にあるものが多いことは素晴らしい。
 ・福岡市立子ども病院の取組みは常に前進するための措置をとっており、期待に十分応えている。
 ・福岡市立子ども病院が他圏域の医療も中核に抱えているという観点からの分析をやってはどうか。

(2) 小項目評価
別紙のとおり

(別紙)

**地方独立行政法人福岡市立病院機構
平成30年度の業務実績に関する評価結果**

小項目評価

福岡市立病院機構の概要

1 現況（平成30年4月1日現在）

① 法人名

地方独立行政法人福岡市立病院機構

② 本部の所在地

福岡市東区香椎照葉5丁目1番1号

③ 役員の状況

役員	氏名	備考
理事長	竹中 賢治	前 福岡市民病院 院長
副理事長	原 寿郎	福岡市立こども病院 院長
理事	石原 進	九州旅客鉄道株式会社 相談役
	久保 千春	九州大学 総長
	神坂 登世子	前 福岡県看護協会 会長
	桑野 博行	福岡市民病院 院長
	砂田 八郎	運営本部 運営本部長
監事	久留 和夫	公認会計士
	柳澤 賢二	弁護士

④ 設置・運営する病院

病院名	所在地	病床数
福岡市立こども病院	福岡市東区香椎照葉5丁目1番1号	一般病床 239床
福岡市民病院	福岡市博多区吉塚本町13番1号	一般病床 200床 感染症病床 4床

⑤ 職員数

（平成30年5月1日現在）

区 分	職員数
合 計	956人
福岡市立こども病院	578人
福岡市民病院	368人
運営本部	10人

2 基本的な目標等

地方独立行政法人福岡市立病院機構は、地方独立行政法人制度の特長である自律性、自主性を最大限に発揮し、医療制度改革や診療報酬改定など医療を取り巻く環境の変化に迅速かつ柔軟に対応しつつ、効率的な病院経営を行いながら、地域の医療機関等との機能分担や連携の下、引き続き高度専門医療、救急医療等を提供し、地域における医療水準の向上、市民の健康の維持及び増進に寄与すべく、以下の基本理念及び基本方針の下、福岡市長から指示された中期目標を達成する。

〈基本理念〉

いのちを喜び、心でふれあい、すべての人を慈しむ病院を目指します。

〈基本方針〉

質の高い医療の提供

地域・社会に貢献する病院

健全な病院経営

1 法人の総括と課題

法人設立9年目となる平成30年度については、福岡市から示された第3期中期目標期間の2年目であり、中期目標の達成に向け、医療水準のさらなる向上を目指し、医療機能の強化や経営の効率化等に取り組んだ。

福岡市から独立した法人として、地方独立行政法人制度の特長を最大限に生かした自律的な経営が求められていることを踏まえ、理事長を中心に、両病院と運営本部が一体となった運営を行うとともに、外部理事を含む理事会を定期的に開催し、経営管理の徹底を図った。

これらの経営基盤の下、第3期中期計画及び平成30年度の年度計画に基づき、福岡市立こども病院においては、中核的な小児総合医療施設として、これまで培ってきた小児医療（高度・地域・救急）及び周産期医療のさらなる充実を図るとともに、NICU（新生児集中治療室）及びGCU（回復治療室）の病床再編を実施するなど患者のニーズや医療環境の変化に即した診療体制の見直し等を図った。

また、福岡市民病院においては、4疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病）への対応を中心に高度専門医療のさらなる充実を図るとともに、高度救急医療並びに感染症医療機能の充実に努めた。

さらに、両病院ともに地域医療支援病院としての役割を踏まえ、積極的に地域の医療機関との連携強化に取り組み、地域医療への貢献に努めた。

経営収支面では、増収対策として、人員の適正配置や救急患者の受入体制の整備などを通じて、病床利用率の向上や手術件数の増加などに努めるとともに、コストパフォーマンスを考慮した診療材料等の選定や価格交渉の徹底など費用削減に取り組んだ結果、当期純利益は福岡市立こども病院において11億4,300万円余、福岡市民病院において3,800万円余となった。

今後の課題としては、福岡市立こども病院においては、求められる高度小児医療、小児救急医療及び周産期医療を提供する病院としての役割を果たしていくため、必要な病床数や医療機能等について、医療環境の変化を踏まえながら、検討を進めていく必要がある。

また、福岡市民病院については、地域医療構想及び医療計画において求められる高度専門医療並びに救急医療体制を提供するために必要な取組みを継続して行うとともに、災害、新型インフルエンザ等発生時やその他の緊急時には、事業継続計画（BCP）に基づき、福岡市及び関係機関との連携の下、市立病院として求められる役割を果たす必要がある。

2 大項目ごとの取組状況及び特記事項

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 医療サービス

福岡市の医療施策として求められる高度専門医療、高度救急医療等を引き続き提供するために、診療機能のさらなる充実を図った。

福岡市立こども病院においては、重症患者の円滑な受入体制を強化することを目的として、NICU21床、GCU18床へ病床の再編を実施するとともに、重症度の高い症例を積極的に受け入れ、病床利用率はNICU96.7%、GCU89.5%と高い水準で稼働した。また、HCU（高度治療室）については、先天性心臓病患者の増加等を踏まえ、専任の医師1人を配置するとともに、重症アレルギー患者を対象に負荷試験を開始するなど効率的な病床稼働へ向けた取組みを進めた結果、病床利用率は85.7%となった。

福岡市民病院においては、医療法で定められた医療計画における4疾病への対応を中心に、高度専門医療のさらなる充実を図り、特に、がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)件数や、脳卒中領域におけるt-PA療法（血栓溶解療法）、経皮的脳血管内手術件数などは平成29年度の実績を上回った。また、救急専門医を1人増員し3人体制とする等、救急医療体制のさらなる充実を図ったほか、新型インフルエンザ等発生時を想定した独自の机上・実動訓練を実施するなど、感染症発生時における対応能力の向上を図った。

また、両病院ともに地域医療支援病院としての役割をさらに高めるため、開放型病床への登録医の拡大やオープンカンファレンスの開催などを通じて、地域の医療機関を中心に積極的な病病連携・病診連携に努めた。

さらに、災害発生に備え、総合防災訓練や避難誘導訓練等を実施し、職員の防災意識及び対応力を高めるとともに、非常用発電設備及び備蓄物品の点検等を徹底した。平成30年7月豪雨（西日本豪雨）では、福岡市立こども病院においては災害支援ナース、福岡市民病院においてはJMAT（日本医師会災害医療チーム）として職員を派遣した。

(2) 患者サービス

患者一人ひとりに質の高い医療及び充実した看護を提供することが患者サービスの基本と捉えたうえで、より一層の接遇改善を含め、職員が一丸となって患者サービスの向上に取り組むとともに、ボランティアの協力も得ながら患者満足度の向上に努めた。

福岡市立こども病院においては、サービス向上WGを立ち上げ、患者アンケートの中から対応可能な案件について迅速に対処・実行するとともに、待ち時間対策として、1階外来フロアにて無料Wi-Fi利用サービスを開始するなど、患者サービスの向上を図った。

福岡市民病院においては、外来待ち時間調査の結果を踏まえ、会計窓口担当者の増員を行い待ち時間の短縮に努めたほか、病棟における夜間配置の看護補助者を8人増員し、高齢・認知症患者の見守り体制を強化するなど、夜間の看護ケア

の充実を図った。

さらに、両病院ともに、市民や医療関係者等に対して最新の病院情報を発信するとともに、「病院指標」をホームページに公開し、一般の人にもわかりやすく解説するなど、市民に開かれた病院づくりに努めた。

(3) 医療の質の向上

医療水準の向上を図る観点から、ワーク・ライフ・バランス推進委員会において年次有給休暇の取得率の向上に取り組むなど魅力的な職場づくりを推進し、優れた人材の確保に努めるとともに、研修内容の充実などにより職員の資質向上を図った。

福岡市立こども病院においては、意欲ある人材を確保するため、看護学生等を対象に「インターンシップ・病院説明会」を開催するとともに、新人看護職員、新任期看護職員等を対象とした研修を計画的に開催するなど、看護職員の資質向上に努めた。また、有期職員や小児科選考医募集の情報をフェイスブックに掲載するなど、SNSを活用し、人材確保に努めた。

福岡市民病院においては、救急専門医3人によるシフト制勤務を導入し、17時以降の当直医の負担軽減を図ったほか、専門職としての知識・技術の向上を図るため、認定看護師等資格取得支援制度の利用を促進し、呼吸器関連等の特定行為研修についても2人の受講が修了した。

両病院ともに、市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、感染症専門医や感染管理認定看護師等を中心に院内の感染防止対策の徹底を図るとともに、医療安全研修会の開催や院内各部署への迅速な情報共有等を通じて、職員の安全対策に対する意識向上を図るなど、医療安全対策の強化を図った。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実

市立病院機構の運営を的確に行うため、平成30年度は計9回の理事会を開催し、理事会の方針決定に沿った運営を行った。

また、病院長のリーダーシップの下、執行部会議や経営五役会議等を開催し、各病院の実態に即した機動性の高い病院経営に取り組むとともに、運営本部と両病院合同による経営会議及び運営調整会議を毎月開催し、機構全体的な視点から、市立病院として適切な運営に取り組んだ。

(2) 事務部門等の専門性の向上

マネジメント能力向上等を目的に、監督者研修を2回実施した。また、福岡市立こども病院において、定型業務を自動化することで職員の事務作業の軽減化を図ることを目的に、RPA（ロボットによる業務自動化：Robotic Process Automation）プロジェクトチームを立ち上げ、導入の検討を進めた。

(3) 働きがいのある職場環境づくり

職員が安心して働き続けることができるよう、夜間保育を継続実施するなど、福利厚生充実の充実に取り組んだ。また、「看護師働き方検討会議」を開催し、看護師が働きやすい環境づくりのさらなる推進に向けて検討を進めた。

さらに、「無期転換職員」のモチベーションの維持・向上を図る観点から、休暇制度等の見直しに取り組んだ。

(4) 法令遵守と公平性・透明性の確保

監督者研修など様々な機会を通じて職員の服務規律の指導を徹底し、法人職員として有すべき行動規範と倫理観の確立に努めるとともに、個人情報保護及び情報公開に関しては、福岡市の関係条例等に基づき、適切に対応した。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 経営基盤の強化

執行部会議等を定期的で開催し、病院の経営状況を踏まえ、取り組むべき課題を明確にしたうえで、増収及び費用削減に取り組むとともに、月次決算の実施など経営に関する情報を迅速に把握し、経営分析や他病院との比較・分析等を通じて、効率的な病院経営に取り組んだ。

また、自己財源の確保対策として、積立金の運用方法を工夫するなどにより積立金の運用利益を確保したほか、価格交渉の徹底等により必要な医療機器を確保しつつ費用の抑制を図るなど、効率的な予算執行と自己財源の確保に努めた。

(2) 収支改善

福岡市立こども病院においては、NICU及びGCUの病床再編や、HCUに専任の医師1人を配置するなど重症患者の円滑な受入れに取り組み、病床利用率の向上に努めた。また、診療報酬改定等を踏まえ、「抗菌薬適正使用支援加算」など新たな施設基準の取得や、レセプト精度調査を実施し、診療録、伝票の記載状況とレセプトの整合性を突合するなど、様々な対策に取り組んだ結果、入院収益は86億7,600万円余で、前年度より8億4,800万円余の増となった。

福岡市民病院においても、救急専門医の増員など救急医療体制のさらなる充実や、手術に係る受入体制の見直し、医療安全対策地域連携加算など新たな施設基準の取得等に取り組んだ結果、高額な手術件数が増加するとともに、入院診療単価が前年度及び目標値を大幅に上回り、入院収益は46億9,900万円余で、前年度より2億5,900万円余の増となった。

一方、費用削減対策については、診療材料の同種同効品への切替えや、ジェネリック医薬品の使用拡大により価格低減を図るとともに、経費全般においても価格交渉の徹底、契約手法の見直しに努め、削減を図った。

これらの結果、両病院ともに、経営に関する3指標（総収支比率、経常収支比率、医業収支比率）の目標をすべて達成し、市立病院機構全体での当期純利益は11億8,200万円余となった。

【医業収益】

(単位：千円)

区 分	平成29年度実績	平成30年度実績 ()は予算上の目標値	比較増減 ()は実績－目標値
福岡市立こども 病院	9,084,896	9,913,103 (8,981,295)	828,207 (931,808)
福岡市民病院	5,686,233	6,065,484 (5,770,421)	379,251 (295,063)
法人全体	14,771,129	15,978,587 (14,751,716)	1,207,458 (1,226,871)

【営業費用】

(単位：千円)

区 分	平成29年度実績	平成30年度実績 ()は予算上の目標値	比較増減 ()は実績－目標値
福岡市立こども 病院	9,646,944	10,296,692 (10,410,055)	649,748 (▲113,363)
福岡市民病院	6,090,349	6,548,984 (6,257,182)	458,635 (291,802)
法人全体	15,737,294	16,845,676 (16,667,237)	1,108,382 (178,439)

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているもので、端数において合計とは一致しないものがある。

【経常収支比率】

(単位：%)

区 分	平成29年度実績	平成30年度実績 ()は30年度目標値	比較増減 ()は実績－目標値
福岡市立こども 病院	109.4	110.9 (100.8)	1.5 (10.1)
福岡市民病院	102.4	100.6 (100.4)	▲1.8 (0.2)
法人全体	106.7	106.9 (100.6)	0.2 (6.3)

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

(1) 福岡市立こども病院における医療機能の充実

厚生労働省DPC（診断群分類）公開データにおいて、川崎病センター及び先天性心疾患に係る手術症例について、成人を含む全国のDPC病院の中で症例数が3年連続で全国一位となった。また、股関節先天性疾患について全国二位、脊椎手術症例及び先天性下部尿路疾患について全国三位となる等、順調に成果を挙げた。

また、臨床研究について、日本医療研究開発機構（AMED）の継続課題や、文部科学省における科学研究費助成事業で新たに採択された課題等に積極的に取り組み、共同研究を含め8件の研究に参加した。

さらに、職員の外国語能力・コミュニケーション能力の向上のため、国際医療支援センターを中心に研修活動の強化を図ったほか、臓器提供の申し出がなされた際に円滑に対応できるよう、日本臓器移植ネットワーク主催研修への職員の派遣や、手術室を用いた実施シミュレーション等、院内の体制整備に取り組んだ。

また、職員が診療・ケアに対して日常的に遭遇する倫理的な価値判断が困難な案件について、他職種で協議・検討する「倫理コンサルテーションチーム」の発足に向け検討を進めた。

(2) 福岡市民病院における経営改善の推進

市立病院として求められる役割を果たすため、高度専門医療、高度救急医療及び感染症医療に必要な医療資源（人的・物的）の投入を適切に行うとともに、薬品費・材料費等の費用削減に取り組んだ結果、経常収支比率は目標値を上回り、3,800万円余の経常利益を確保した。

また、地域医療支援病院として、かかりつけ医との連携等、地域の医療水準全体の底上げを目標とした諸活動を継続して行うとともに、中長期修繕計画に基づき、施設の長寿命化及び費用の標準化を目的に、施設・設備の適切な維持管理に取り組んだ。

【福岡市民病院 医業収支比較】

（単位：百万円）

区 分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
医業収益 a	5,311	5,739	5,496	5,686	6,065
営業費用 b	5,486	6,228	6,227	6,090	6,549
差引 (a-b)	▲175	▲489	▲730	▲404	▲483
医業収支比率 (a/b)	96.8 %	92.1 %	88.3 %	93.4 %	92.6% (92.1%)

※（ ）内は目標値

（注）平成27年度決算より、消費税等に係る費用計上を営業外費用から営業費用に変更している。

【主な目標値の達成状況】

区 分		福岡市立こども病院			福岡市民病院		
		30年度 目標値	30年度 実績値	達成率	30年度 目標値	30年度 実績値	達成率
患者 動向	1人1日当たり入院単価（円）	102,050	107,411	105.3	65,900	67,382	102.2
	1人1日当たり外来単価（円）	12,400	11,645	93.9	20,000	22,569	112.8
	1日当たり入院患者数（人） （病床利用率（%））	210.3 (88.0)	221.6 (92.7)	105.4 (105.3)	186.7 (91.5)	191.1 (93.7)	102.4 (102.4)
	新規入院患者数（人）	6,500	7,424	114.2	4,750	4,895	103.1
	平均在院日数（日）	10.3	9.9	104.0	12.5	12.4	100.8
	1日当たり外来患者数（人）	352.5	384.8	109.2	245.0	232.6	94.9
医業 活動	手術件数（件）	2,700	3,018	111.8	3,100	3,834	123.7
	救急搬送件数（件）	1,190	1,516	127.4	2,800	3,130	111.8
	紹介率（%）	88.0	87.8	99.8	84.0	88.8	105.7
	逆紹介率（%）	61.0	65.5	107.4	140.0	153.2	109.4
	薬剤管理指導件数（件）	8,100	5,650	69.8	9,350	9,509	101.7
	栄養食事指導・相談件数（件）	900	1,457	161.9	1,200	1,033	86.1
患者 満足	退院時アンケートの平均評価点数 （こども病院）（100点満点）	88.4	88.8	100.5	—	—	—
	患者満足度調査における平均評価 点数（福岡市民病院）（100点満点）	—	—	—	88.0	89.6	101.8
経営 収支	給与費対医業収益比率（%）	59.4	53.6	110.8	57.3	56.4	101.6
	材料費対医業収益比率（%）	19.8	17.9	110.6	27.0	28.7	94.1
	薬品費対医業収益比率（%）	7.5	5.9	127.1	8.8	9.2	95.7
	診療材料費対医業収益比率（%）	12.0	11.7	102.6	18.1	19.5	92.8
	委託費対医業収益比率（%）	10.0	8.9	112.4	7.5	7.1	105.6
	ジェネリック医薬品導入率（%）※	85.0	85.0	100.0	85.0	88.6	104.2
	総収支比率（%）	100.8	110.9	110.0	100.4	100.6	100.2
	経常収支比率（%）	100.8	110.9	110.0	100.4	100.6	100.2
医業収支比率（%）	86.2	96.3	111.7	92.1	92.6	100.5	

※ジェネリック医薬品導入率については、数量ベースにて算出している。

項目別の状況

中期目標(項目)	<p>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>1 医療サービス (1) 良質な医療の実践</p>
----------	--

中期計画	年度計画
<p>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 医療サービス</p> <p>(1) 良質な医療の実践</p> <p>福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。</p> <p>ア 福岡市立こども病院</p> <p>高度小児医療，小児救急医療及び周産期医療のさらなる充実に取り組むとともに，医療環境の変化等を踏まえ，福岡市立こども病院に求められる役割を果たせるよう，診療機能（特に集中治療系病床等）の充実や見直しを図る。</p>	<p>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 医療サービス</p> <p>(1) 良質な医療の実践</p> <p>福岡市立こども病院及び福岡市民病院が，それぞれに求められる役割を着実に果たすため，次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。</p> <p>ア 福岡市立こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 周産期病床において，重症患者の円滑な受入体制を強化することを目的として，病床再編を実施し，NICUを3床増床（18床→21床）する。 ○ HCUにおける先天性心臓病等の重症患者増加を踏まえ，術前・術後管理をより円滑に行うため，集中治療科に医師を1名増員し，診療体制を強化する。

中期目標(内容)	<p>市立病院機構は、地域における医療水準の向上を図り、市民の健康の維持及び増進に寄与するため、福岡市における医療政策として求められる高度専門医療、救急医療等を提供すること。</p> <p>また、その役割を安定的・継続的に果たすため、患者のニーズや医療環境の変化に即して、診療機能の充実や見直しを図ること。</p> <p>ア 福岡市立こども病院</p> <p>これまで培ってきた高度小児専門医療、小児救急医療及び周産期医療のさらなる充実を図るとともに、中核的な小児総合医療施設として求められる役割を果たすこと。</p>
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
<p>ア 福岡市立こども病院</p> <p>○ 重症患者の円滑な受入体制を強化することを目指すとして、NICU21床、GCU18床～病床の再編を実施するとともに、重症度の高い症例を積極的に受け入れた結果、病床利用率は□NICU96.7%(29年度:94.0%)、GCU89.5%(29年度:79.5%)と高い水準で稼働し、NICUの入院料加算算定率は87.6%(29年度:83.5%)となった。</p> <p>○ HCUについては、先天性心臓病患者の増加等を踏まえ、先天性心臓病に対する術前術後管理を効率的・効果的に行うため、専任の医師1人を配置したほか、保育士を配置するなど多職種による診療機能の充実を図った。</p> <p>また、重症アレルギー患者を対象に負荷試験を開始するなど効率的な病床稼働へ向けた取組みを進めた結果、病床利用率は85.7%(29年度:72.6%)となった。</p> <p>○ 主な目標値の達成状況については、外来単価を除くすべての指標で目標を上回った。1日あたり入院患者数、手術件数、救急搬送件数など、対前年度実績、対目標値ともに大きく上回った。</p>	2	4	4	<p>○ NICUとGCUの病床再編による重症患者の受入体制の強化、HCUの専任医師増員による診療体制の強化など、年度計画どおり診療機能の強化・充実が図られた。</p> <p>○ 一部の指標で目標値を下回っているものの、NICUを増床したうえでの病床利用率の向上、HCUの重症アレルギー患者負荷試験の開始などを評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。</p>

中期計画			年度計画		
【目標値】			【目標値】		
指標	福岡市立こども病院		指標	福岡市立こども病院	
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値		平成28年度 実績値	平成30年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）	96,877	99,400	1人1日当たり 入院単価（円）	101,587	102,050
1人1日当たり 外来単価（円）	12,458	11,700	1人1日当たり 外来単価（円）	12,378	12,400
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））	184.4 (78.0)	207.8 (86.9)	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））	205.6 (86.0)	210.3 (88.0)
新規入院患者数（人）	6,038	6,200	新規入院患者数（人）	6,429	6,500
平均在院日数（日）	10.2	11.2	平均在院日数（日）	10.7	10.3
1日当たり 外来患者数（人）	288.9	300.0	1日当たり 外来患者数（人）	329.3	352.5
手術件数（件）	2,447	2,650	手術件数（件）	2,695	2,700
救急搬送件数（件）	1,028	1,050	救急搬送件数（件）	1,178	1,190

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】						
指標	福岡市立こども病院					
	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値				
1人1日当たり 入院単価(円)	101,114	107,411				
1人1日当たり 外来単価(円)	12,756	11,645				
1日当たり 入院患者数(人) (病床利用率(%))	212.1 (88.7)	221.6 (92.7)				
新規入院患者数(人)	6,908	7,424				
平均在院日数(日)	10.2	9.9				
1日当たり 外来患者数(人)	358.9	384.8				
手術件数(件)	2,760	3,018				
救急搬送件数(件)	1,332	1,516				

中期目標(項目)	<p>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>1 医療サービス (1) 良質な医療の実践</p>
----------	--

中期計画	年度計画
<p>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 医療サービス</p> <p>(1) 良質な医療の実践</p> <p>福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。</p> <p>イ 福岡市民病院</p> <p>① 医療法で定められた医療計画における4疾病(がん, 脳卒中, 急性心筋梗塞及び糖尿病)への対応を中心に高度専門医療のさらなる充実を図る。</p> <p>② 救急患者の受入れを円滑に行うとともに、より重篤な救急患者の受入れを行う高度救急医療の強化充実を図る。</p> <p>③ 新型インフルエンザ等対策措置法における「指定地方公共機関」として、新型インフルエンザ等の感染症発生時においては、福岡市における対策の中核的役割を果たすため、別途定めるBCP(事業継続計画)に基づき適切に対応する。</p>	<p>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 医療サービス</p> <p>(1) 良質な医療の実践</p> <p>福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。</p> <p>イ 福岡市民病院</p> <p>○ 医療法で定められた医療計画における4疾病(がん, 脳卒中, 心筋梗塞等の心血管疾患及び糖尿病)への対応を中心に、高度専門医療のさらなる充実を図る。特に、脳卒中急性期等に対しては内科的・外科的治療を含めた専門的医療を包括的に提供するとともに、急性期心血管疾患等に対しては経皮的心筋焼灼術(アブレーション)等難易度の高い手術等の提供を一層推進する。また、看護師、医師事務作業補助者等のさらなる活用によるタスク・シフティングによって医師の業務負担軽減を推進し、診療体制の充実を図る。</p> <p>○ 救急専門医の増員や認定看護師の育成等、救急部の受入体制強化を行い、脳疾患、循環器疾患、重症外傷等の入院や手術を必要とする重篤な救急患者の受入件数の増加を図る。</p> <p>○ 新型インフルエンザ等の感染症発生時においては、別途定める事業継続計画(BCP)に基づき適切に対応することにより、福岡市における対策の中核的役割を果たす。</p>

中期目標(内容)	<p>市立病院機構は、地域における医療水準の向上を図り、市民の健康の維持及び増進に寄与するため、福岡市における医療政策として求められる高度専門医療、救急医療等を提供すること。</p> <p>また、その役割を安定的・継続的に果たすため、患者のニーズや医療環境の変化に即して、診療機能の充実や見直しを図ること。</p> <p>イ 福岡市民病院 高度専門医療を担う地域の中核病院としての機能を維持するとともに、高度救急医療のさらなる充実を図ること。</p> <p>また、新型インフルエンザ等の感染症発生時においては、福岡市における対策の中核的役割を果たすため、必要な対応を図ること。</p>
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
<p>イ 福岡市民病院</p> <p>○ 高度専門医療のさらなる充実を図るため、がんに対しては、消化器センター・肝胆膵センターを中心に、患者にとって侵襲の少ない鏡視下手術や化学療法等を組み合わせた集学的治療を提供した。特に、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)、化学療法の件数は、いずれも平成29年度の実績を上回った。</p> <p>脳卒中領域においては、脳血管内治療部により、発症後早期のt-PA療法はもとより、超急性期における血栓回収療法等の血管内治療や外科的治療等、急性期の治療を包括的に実施した。特に、t-PA療法、経皮的脳血管内手術の件数は、いずれも平成29年度を上回った。</p> <p>循環器内科においては、心不全患者の増加に伴い、PCI(冠動脈狭窄性病変に対してカテーテルを用いて拡張を行う治療)を含む手術、経皮的心筋焼灼術など、難易度、専門性の高い手術等が増加した。</p> <p>糖尿病に対しては、通常の外來診療や入院診療で最新の治療を行いつつ、他疾患手術のために入院した糖尿病患者の診療を内科外科共同で行うなど幅広く対応した。</p> <p>また、特定行為に係る看護師の研修に2人を派遣するなど、タスク・シフティングの推進による医師の業務負担軽減を図り、診療体制の充実に努めた。</p> <p>○ 救急専門医を1人増員して3人体制とするとともに、シフト制を導入し、平日23時まで専門医が救急患者の対応を行うなど、受入体制強化を図った結果、救急搬送件数は過去最高となった。また、入院時の重症度を表す救急医療管理加算の算定件数が増加した。</p> <p>○ 博多区保健福祉センター、博多消防署及び福岡検疫所との合同で新型インフルエンザ等対策に係る机上・実動訓練を実施し、院内における措置手順の検証、問題点の抽出及び意見交換を行い、感染症発生時における対応能力の向上を図った。</p> <p>○ これらの取組みの結果、1日当たり外來患者数を除くすべての指標で対前年度実績、対目標値ともに上回った。</p>	2	4	4	<p>○ 4疾病を中心とした高度専門医療のさらなる充実、タスク・シフティングによる医師の業務負担軽減、救急専門医増員による受入体制の強化、感染症発生時における対応能力の向上など、年度計画どおり診療機能の強化・充実が図られた。</p> <p>○ 一部の指標で目標値を下回っているものの、専門性の高い手術件数の大幅な増加、救急搬送件数が過去最高などを評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。</p>

中期計画			年度計画		
【目標値】			【目標値】		
指標	福岡市民病院		指標	福岡市民病院	
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値		平成28年度 実績値	平成30年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）	64,749	67,000	1人1日当たり 入院単価（円）	62,434	65,900
1人1日当たり 外来単価（円）	22,739	18,200	1人1日当たり 外来単価（円）	22,997	20,000
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））	183.7 (90.1)	183.6 (90.0)	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））	181.3 (88.9)	186.7 (91.5)
新規入院患者数（人）	4,510	4,800	新規入院患者数（人）	4,438	4,750
平均在院日数（日）	12.6	12.5	平均在院日数（日）	13.0	12.5
1日当たり 外来患者数（人）	234.2	250.0	1日当たり 外来患者数（人）	229.1	245.0
手術件数（件）	3,060	3,100	手術件数（件）	3,100	3,100
救急搬送件数（件）	2,620	2,800	救急搬送件数（件）	2,670	2,800

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】						
指標	福岡市民病院					
	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値				
1人1日当たり 入院単価(円)	64,141	67,382				
1人1日当たり 外来単価(円)	20,907	22,569				
1日当たり 入院患者数(人) (病床利用率(%))	189.7 (93.0)	191.1 (93.7)				
新規入院患者数 (人)	4,709	4,895				
平均在院日数(日)	12.6	12.4				
1日当たり 外来患者数(人)	226.8	232.6				
手術件数(件)	3,534	3,834				
救急搬送件数(件)	3,011	3,130				

中期目標(項目)	<p>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>1 医療サービス (2) 地域医療への貢献と医療連携の推進</p>
----------	--

中期計画	年度計画
<p>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 医療サービス</p> <p>(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進</p> <p>① 地域医療体制の中核を担う地域医療支援病院としての役割を踏まえ、かかりつけ医等の支援を通じて地域医療への貢献に取り組む。</p> <p>② 地域の医療機関との連携・協力体制の充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進する。</p> <p>③ 福岡市立こども病院については、福岡県小児等在宅医療推進事業の拠点病院として、行政・医療・福祉・教育等の関係機関と連携を深め、小児在宅医療を担う在宅医や訪問看護ステーション等が拡充されるよう支援を行う等、地域における医療提供ネットワーク構築に積極的に参加する。</p> <p>④ 福岡市民病院については、地域包括ケアシステムにおいて急性期病院が担うべき役割として、地域の在宅医療を担う訪問看護ステーションやかかりつけ医等との積極的な連携、支援を行い、在宅復帰支援体制並びに緊急時の入院受入体制の強化を図る。</p>	<p>ア 福岡市立こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成29年12月に参加した福岡県医師会診療情報ネットワーク「とびうめネット」を活用し、病病・病診連携の推進を図る。 ○ 「福岡県小児等在宅医療推進事業」の拠点病院として、地域におけるネットワーク構築や、院内における退院支援、研修会等を行うほか、福岡県等が実施する「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」に参加し、地域の小児在宅医療の推進に努める。 ○ 「福岡県母体搬送コーディネーター事業」の中核病院として、積極的に母体搬送を受け入れることにより、地域における周産期救急搬送体制の一翼を担う。

中期目標(内容)	地域医療に貢献するため、地域の医療機関との連携・協力体制のさらなる充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進すること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
<p>ア 福岡市立こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 福岡県医師会診療情報ネットワーク「とびうめネット」の活用による、タブレット端末を用いた訪問看護ステーション等との連携について、検討を開始した。 ○ 「福岡県小児等在宅医療推進事業」の拠点病院として、診療所医師・訪問看護師等を対象とした在宅医療に関する研修の実施や、退院前・退院後の患者宅への訪問による自宅の環境調整、九州大学病院との協同による在宅支援マニュアルの改定、患者家族との交流イベントの開催等を行った。 また、福岡県等が実施する「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」に参加し、医療的ケア児7人についてレスパイト入院を実施した。 ○ 「福岡県母体搬送コーディネーター事業」の中核病院として、切迫早産や前期破水など新生児病床を必要とする母体搬送症例を積極的に受け入れた。 <p style="margin-left: 20px;">※全コーディネート件数中、当院の受入状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・29年度：67件中16件（23.9%） ・30年度：82件中24件（29.3%） 	2	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「福岡県小児等在宅医療推進事業」、 「福岡県小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」など、年度計画どおり地域医療への貢献と医療連携の推進が図られた。 ○ 一部の指標で目標値を下回っているものの、「福岡県小児等在宅医療推進事業」において、退院前後の患者宅訪問件数の増加、「福岡県母体搬送コーディネーター事業」の受入実績の向上などを評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画			年度計画				
【目標値】			【目標値】				
指標		福岡市立こども病院		指標		福岡市立こども病院	
		平成27年度 実績値	平成32年度 目標値			平成28年度 実績値	平成30年度 目標値
紹介率 (%)		78.4	80.0	紹介率 (%)		90.1	88.0
逆紹介率 (%)		50.2	46.0	逆紹介率 (%)		54.8	61.0
オープンカン ファレンス	回数 (回)	45	45	オープンカン ファレンス	回数 (回)	48	48
	参加者数 (人)	1,713	1,300		参加者数 (人)	1,771	1,700
開放型病床への登録 医数 (人)		193	300	開放型病床への登録 医数 (人)		297	300
退院支援計画件数 (件)		150	200	退院支援計画件数 (件)		200	220

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)		自己評価		市長の評価	
		ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】					
		福岡市立こども病院			
指標		平成29年度 実績値	平成30年度 実績値		
紹介率 (%)		87.9	87.8		
逆紹介率 (%)		65.9	65.5		
オープンカン ファレンス	回数 (回)	46	56		
	参加者数 (人)	1,865	1,915		
開放型病床への登録 医数 (人)		303	305		
退院支援計画件数 (件)		229	225		

<p>中期目標(項目)</p>	<p>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (2) 地域医療への貢献と医療連携の推進</p>
<p>中期計画</p>	<p>年度計画</p>
<p>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 医療サービス</p> <p>(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進</p> <p>① 地域医療体制の中核を担う地域医療支援病院としての役割を踏まえ、かかりつけ医等の支援を通じて地域医療への貢献に取り組む。</p> <p>② 地域の医療機関との連携・協力体制の充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進する。</p> <p>③ 福岡市立こども病院については、福岡県小児等在宅医療推進事業の拠点病院として、行政・医療・福祉・教育等の関係機関と連携を深め、小児在宅医療を担う在宅医や訪問看護ステーション等が拡充されるよう支援を行う等、地域における医療提供ネットワーク構築に積極的に参加する。</p> <p>④ 福岡市民病院については、地域包括ケアシステムにおいて急性期病院が担うべき役割として、地域の在宅医療を担う訪問看護ステーションやかかりつけ医等との積極的な連携、支援を行い、在宅復帰支援体制並びに緊急時の入院受入体制の強化を図る。</p>	<p>イ 福岡市民病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域医療支援病院として、大型医療機器等の共同利用や入院患者への共同診療、地域の医療従事者に対するオープンカンファレンス等の研修会実施など、かかりつけ医等の支援についてさらなる充実を図る。 ○ 「顔の見える連携」を基本として、紹介患者への最適な医療を提供するとともに、地域医療構想における急性期病院としての役割を明確にし、かかりつけ医や他の病院との連携体制のさらなる充実を図る。 ○ 地域包括ケアシステムについて、医師会をはじめ関係団体と連携し、急性期医療に関する研修の実施など、地域の在宅医療を担う医療従事者への積極的な支援を行う。また、入退院支援部門を拡充し、入院予定患者への支援を行うとともに、在宅復帰支援においては多職種による退院前カンファレンス等を充実させるなど、地域の医療機関・介護関連施設等とのさらなる連携強化を図る。

中期目標(内容)	地域医療に貢献するため、地域の医療機関との連携・協力体制のさらなる充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進すること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 <ul style="list-style-type: none"> ○ 市立病院及び地域医療支援病院としての役割を果たすため、紹介患者に対する医療の提供、医療機器の共同利用の推進、救急医療の提供及び地域の医療従事者に対する研修等の実施に取り組んだ。 ○ 紹介患者に対する医療の提供については、「顔の見える連携」「断らない連携」を基本とし、医師・MSW（医療ソーシャルワーカー）による積極的な訪問・案内を継続して実施した。これにより、開放型登録医数が増加するとともに、初診紹介患者数は5,008人で平成29年度実績を上回った。 ○ 大型医療機器等の共同利用の推進に努めるとともに、救急受入体制のさらなる強化を図り、救急搬送件数は増加した。 また、地域の医療従事者に対して、福岡東部オープンカンファレンス、緩和ケア研修会等を実施した。さらに、ALS（筋萎縮性側索硬化症）講習会など医療従事者向けの研修会や、地域住民への医療講演出張セミナー等の継続実施、他医療機関からの新人看護師の研修受入れ等を行った。 ○ 脳卒中や大腿骨頸部骨折の病病連携にあたっては、地域連携パス連絡会を開催するとともに、地域連携ワークショップへの参加や連携先医療機関等との情報交換（訪問・来訪）に努めた。 脳卒中連携パスの使用については、福岡市内の急性期病院で最多となる309件の実績であった。 ○ 地域包括ケアシステムにおいては、博多区の基幹病院として、博多区医師会との連携のもと、在宅医療に係る後方支援病院として、在宅患者の緊急時の積極的受入れや、訪問看護ステーション及び在宅医等とのカンファレンスの開催、在宅医療を担う医療従事者向け研修会の開催など継続して行った。 ○ 地域医療連携室における入退院支援体制のさらなる充実を図るため、4月に入退院支援 	2	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大型医療機器等の共同利用、救急医療提供者及び医療従事者向けの研修会等、地域医療支援病院としての役割を果たすとともに、地域包括ケアシステムにおける基幹病院として、地域医療への貢献と医療連携が図られた。 ○ 全ての指標で目標値を上回っており、特に、初診紹介患者数の増加、一般病院の中で高い水準にある逆紹介率、脳卒中連携パス使用実績が市内急性期病院で最多なども評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画				年度計画			
【目標値】				【目標値】			
指標		福岡市民病院		指標		福岡市民病院	
		平成27年度 実績値	平成32年度 目標値			平成28年度 実績値	平成30年度 目標値
紹介率 (%)		82.1	85.0	紹介率 (%)		87.3	84.0
逆紹介率 (%)		147.0	140.0	逆紹介率 (%)		154.6	140.0
オープンカンファレンス	回数 (回)	83	70	オープンカンファレンス	回数 (回)	85	70
	参加者数 (人)	1,477	1,400		参加者数 (人)	1,609	1,400
開放型病床への登録医数 (人)		174	200	開放型病床への登録医数 (人)		270	270
退院調整件数(件)		904	950	退院調整件数(件)		1,022	930

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価																									
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																								
<p>室を設置し、多職種連携による入院前からの患者サポートの強化・充実を図るとともに、患者の円滑な受入れや急性期治療後の状態に応じた退院・転院調整に努めた。その結果、入退院支援加算1の算定件数は増加した(29年度938件→30年度1,020件)。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標</th> <th colspan="2">福岡市民病院</th> </tr> <tr> <th>平成29年度 実績値</th> <th>平成30年度 実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率 (%)</td> <td>86.5</td> <td>88.8</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率 (%)</td> <td>151.2</td> <td>153.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">オープンカンファレンス</td> <td>回数 (回)</td> <td>78</td> <td>98</td> </tr> <tr> <td>参加者数 (人)</td> <td>1,573</td> <td>1,545</td> </tr> <tr> <td>開放型病床への登録医数 (人)</td> <td>302</td> <td>310</td> </tr> <tr> <td>退院調整件数(件)</td> <td>1,191</td> <td>1,200</td> </tr> </tbody> </table>	指標	福岡市民病院		平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	紹介率 (%)	86.5	88.8	逆紹介率 (%)	151.2	153.2	オープンカンファレンス	回数 (回)	78	98	参加者数 (人)	1,573	1,545	開放型病床への登録医数 (人)	302	310	退院調整件数(件)	1,191	1,200				
指標		福岡市民病院																										
	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値																										
紹介率 (%)	86.5	88.8																										
逆紹介率 (%)	151.2	153.2																										
オープンカンファレンス	回数 (回)	78	98																									
	参加者数 (人)	1,573	1,545																									
開放型病床への登録医数 (人)	302	310																										
退院調整件数(件)	1,191	1,200																										

中期目標(項目)	<p>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>1 医療サービス (3) 災害時等の迅速かつ的確な対応</p>
中期計画	年度計画
<p>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 医療サービス</p> <p>(3) 災害時等の対応</p> <p>① 災害発生時やその他の緊急時においては、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画を始め、院内のBCP(事業継続計画)等に基づき、福岡市及び関係機関との連携の下、患者の受入や医療従事者の派遣など迅速かつ的確に対応し、市立病院としての役割を果たす。</p> <p>② 防災対策の点検や必要物品等の備蓄確認等を徹底し、災害対応に備えた万全な体制を維持する。</p> <p>③ 他の自治体等において大規模災害が発生した場合は、関係機関や被災した医療機関等との連携を図るなどの的確に医療救護活動の支援に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市立病院としての役割を果たすため、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画を始め、院内の事業継続計画(BCP)等に基づく適切な対応が行えるよう体制を整えとともに、院内防災マニュアルの周知や防災訓練の実施等を通じ、職員の防災意識を高める。 ○ 非常用発電設備及び備蓄物品等の点検を徹底し、災害発生時の万全な対応に備える。 ○ 他の自治体において大規模災害が発生した場合は、関係機関や被災した医療機関等との連携を図るなど、的確に医療救護活動の支援に努めるとともに、こども病院においては、全国の小児総合医療施設間で組織された「広域災害時の相互支援システム」における九州地区の幹事施設として、衛星電話の活用等により連携を図る。 <p>また、福岡市民病院においては、平成28年11月に締結した福岡県内の自治体病院間における災害時相互応援協定の事務局としての役割を適切に果たす。</p>

中期目標 (内容)	<p>災害発生時やその他の緊急時において、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画等に基づき、市立病院として迅速かつ的確に対応すること。</p> <p>また、他の自治体等において大規模災害が発生した場合は、関係機関や被災した医療機関等との連携を図るなどの確に医療救護活動の支援に努めること。</p>
--------------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
<ul style="list-style-type: none"> ○ 市立病院としての役割を果たすため、災害発生に備え、消防計画に基づく総合防災訓練や避難誘導訓練等を適宜実施し、職員の防災意識及び対応力を高めるとともに、非常用発電設備及び備蓄物品の点検等を徹底した。 ○ 福岡市立こども病院においては、全国の小児総合医療施設間で組織された「広域災害時の相互支援システム」における九州地区の幹事施設として、衛星電話の活用等により引き続き連携を図った。 ○ 福岡市民病院においては、福岡県内の自治体病院間における災害時相互応援協定の事務局として、協定病院の災害時連絡体制の定期確認及び情報提供を行った。 また、10月の福岡市市民総合防災訓練（博多区会場）に参加し、災害避難時におけるエコノミークラス症候群の予防講座及び感染症予防のための手指消毒講座を実施するとともに、12月に博多区保健福祉センター、博多消防署及び福岡検疫所との合同により、新型インフルエンザ等対策に係る机上・実働訓練を実施し、新型インフルエンザ等の感染症発生時における対応能力の向上を図った。 ○ 平成30年7月豪雨（西日本豪雨）において、福岡市立こども病院については、福岡県看護協会からの依頼に基づき、災害支援ナース1人を広島県安芸郡坂町へ派遣し、避難者の体調確認や健康相談などの支援を行った。 また、福岡市民病院についても、日本医師会からの要請を受け、JMAT（日本医師会災害医療チーム）として職員を岡山県倉敷市真備町へ派遣した。 	1	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 災害発生に備え訓練の実施や設備・物品の点検の徹底が図られたほか、福岡市民病院においては、「福岡市市民総合防災訓練」に参加し、災害避難時におけるエコノミー症候群や感染症の予防講座を実施した。 ○ 7月の西日本豪雨の際は、災害支援ナースやJMATの派遣など、両病院ともに災害時等の体制が整えられていることから、年度計画を順調に実施していること判断されるため、「評価3」とする。

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 患者サービス (1) 患者サービスの向上
----------	--

中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 患者サービス (1) 患者サービスの向上 ① 患者満足度調査等を実施し、患者のニーズを的確に捉えた上で、より一層の患者サービスの向上を図る。 ② 患者やその家族が安心して医療を享受できるよう、社会的、経済的悩みや不安等に適切に対応する。 ③ 院内環境の整備を進め、より快適な療養環境を提供する。 ④ ボランティアとの連携などにより、市民・患者の視点に立った患者サービスの向上に努める。	ア 福岡市立こども病院 ○ 退院時アンケートやホームページからの患者・家族からの意見等を踏まえ、院内の接遇・療養環境委員会を中心に、関係部署とも協議しながら、院内環境の整備を推進し、より快適な療養環境を提供する。 ○ ボランティアの受入体制強化を図り、患者・家族のニーズに応じた活動を実施するとともに、感染や安全面等に関するボランティア研修を開催するなど、ボランティアとの共働に向けさらなる活動支援・連携強化を図る。 ○ 患児家族滞在施設(ふくおかハウス)について、患児家族が安心して滞在できるよう「公益法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン」の円滑な運営に協力する。 ○ ホームページ予約システムについて、対象診療科の拡大など適宜改善を行い、患者の利便性向上を図る。 ○ 平成29年度に創設した「外国人支援通訳サポーター登録制度」の登録ボランティア数の拡大により、外国人患者への対応の強化を図る。

中期目標(内容)	<p>選ばれる病院であり続けるため、患者のニーズを的確に捉えながら院内環境の整備を進めるほか、ボランティアとの連携を図ることなどにより、市民・患者の視点に立った患者サービスの向上に努めること。</p>
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
<p>ア 福岡市立こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ サービス向上WGを立ち上げ、患者アンケートの中から対応可能な案件については迅速に対処・実行し、対応等を院内へ掲示した。また、退院時アンケート等を踏まえ、便利施設運業者と協議し、メニューや価格及び品揃えの見直しを行った。 ○ ボランティアについては、1月から新たにボランティアコーディネーター1人を配置し、受入体制の強化を図るとともに、研修の開催や活動実績に対する表彰などの活動支援を行った。 年間を通して、患者や患者家族に対する多彩な活動が行われ、年間の受入件数は507件となった。 ○ 各種プロスポーツ選手による病棟訪問やプレゼント配付、院内コンサートの受入れ等を積極的に行うなど、患者サービスの向上に努めた。 ○ 子どもの心身発達をサポートするなど、特に集中治療系患者に係る院内療養環境の向上を図る観点から、HCUへ保育士1人を配置した。 ○ 患児家族滞在施設（ふくおかハウス）については、施設の円滑な運営ができるよう協力を行い、利用率79.1%を達成した。一方で、満室によりお断りする事例が発生していることを踏まえ、令和元年度中を目途に、5室の増室（16室→21室）を図る計画に着手した。 ○ ホームページからの再診予約システムについて、未実施の診療科との協議を継続しながら、合計14診療科・1センターにおいて受付を行い、患者の利便性向上を図った。 ○ 外国人患者への円滑な対応のために創設した外国人支援通訳サポーターについて、初の中国語サポーターを登録し、5人から7人へ増員した。 ○ 待ち時間対策として、夏休みで患者が増える7月末より、1階外来フロアにて無料Wi-Fi利用サービスを開始した。 ○ コミュニケーション戦略の一環として当院に親しみを感じていただくため、当院のロゴであるぞうさんの名前を募集した結果、愛称が「ひかり」に決定し、当院の広報・PRに活用した。 	2	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 退院時アンケートの意見等を踏まえて迅速な環境改善を進めたほか、ボランティア受入体制の強化、ホームページ予約システムの対象診療科拡大、患児家族滞在施設（ふくおかハウス）の高い利用率の維持など、年度計画どおり院内環境整備を進められた。 ○ 小児専門病院で導入事例が少ないHCUへの保育士配置、外来フロアの無料Wi-Fiの新規設置、退院時アンケートの高い水準を維持した目標達成などを評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画			年度計画																		
【目標値】 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標</th> <th colspan="2">福岡市立こども病院</th> </tr> <tr> <th>平成27年度 実績値</th> <th>平成32年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)</td> <td>88.0</td> <td>88.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇，療養環境，食事内容等</p>			指標	福岡市立こども病院		平成27年度 実績値	平成32年度 目標値	退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	88.0	88.0	【目標値】 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標</th> <th colspan="2">福岡市立こども病院</th> </tr> <tr> <th>平成28年度 実績値</th> <th>平成30年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)</td> <td>88.4</td> <td>88.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇，療養環境，食事内容等</p>			指標	福岡市立こども病院		平成28年度 実績値	平成30年度 目標値	退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	88.4	88.4
指標	福岡市立こども病院																				
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値																			
退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	88.0	88.0																			
指標	福岡市立こども病院																				
	平成28年度 実績値	平成30年度 目標値																			
退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	88.4	88.4																			

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価									
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど								
<p>【実績値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標</th> <th colspan="2">福岡市立こども病院</th> </tr> <tr> <th>平成29年度 実績値</th> <th>平成30年度 実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)</td> <td>88.8</td> <td>88.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇, 療養環境, 食事内容等</p>	指標	福岡市立こども病院		平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	88.8	88.8				
指標		福岡市立こども病院										
	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値										
退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	88.8	88.8										

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 患者サービス (1) 患者サービスの向上
----------	--

中期計画	年度計画																
<p>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>2 患者サービス</p> <p>(1) 患者サービスの向上</p> <p>① 患者満足度調査等を実施し、患者のニーズを的確に捉えた上で、より一層の患者サービスの向上を図る。</p> <p>② 患者やその家族が安心して医療を享受できるように、社会的、経済的悩みや不安等に適切に対応する。</p> <p>③ 院内環境の整備を進め、より快適な療養環境を提供する。</p> <p>④ ボランティアとの連携などにより、市民・患者の視点に立った患者サービスの向上に努める。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標</th> <th colspan="2">福岡市民病院</th> </tr> <tr> <th>平成27年度実績値</th> <th>平成32年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者満足度調査における平均評価点数 (100点満点)</td> <td style="text-align: center;">90.1</td> <td style="text-align: center;">88.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容等</p>	指標	福岡市民病院		平成27年度実績値	平成32年度目標値	患者満足度調査における平均評価点数 (100点満点)	90.1	88.0	<p>イ 福岡市民病院</p> <p>○ 職員の接遇及び療養環境等に関する患者満足度調査や外来待ち時間調査等を実施し、患者のニーズを的確に捉えた上で、より一層のサービス向上を図る。</p> <p>○ 患者またはその家族等からの医療・福祉に関する相談などについて、患者サポート相談窓口を中心に適切に対応する。</p> <p>○ 入院ベッドの更新を計画的に行うとともに、平成29年度に策定した中長期修繕計画に基づき、病室の天井・壁・床面の段階的な改修を行うなど、療養環境の整備に努める。</p> <p>○ 大学サークル・市民団体等と交渉し、定期的に院内コンサート等を実施するとともに、患者の手助けなどを行う院内ボランティア(現在2名)を幅広く募集するなど、登録者の拡大を図る。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標</th> <th colspan="2">福岡市民病院</th> </tr> <tr> <th>平成28年度実績値</th> <th>平成30年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者満足度調査における平均評価点数 (100点満点)</td> <td style="text-align: center;">90.6</td> <td style="text-align: center;">88.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容等</p>	指標	福岡市民病院		平成28年度実績値	平成30年度目標値	患者満足度調査における平均評価点数 (100点満点)	90.6	88.0
指標		福岡市民病院															
	平成27年度実績値	平成32年度目標値															
患者満足度調査における平均評価点数 (100点満点)	90.1	88.0															
指標	福岡市民病院																
	平成28年度実績値	平成30年度目標値															
患者満足度調査における平均評価点数 (100点満点)	90.6	88.0															

中期目標(内容)	<p>患者のニーズを的確に捉えるとともに、選ばれる病院であり続けるため、患者サービスの向上に努めること。</p> <p>また、より快適な療養環境を提供するため、院内環境の整備を進めるなど、患者の利便性の向上を図ること。</p>
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価									
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど								
<p>イ 福岡市民病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 外来待ち時間調査の結果を踏まえ、会計窓口担当者の増員を行い、待ち時間の短縮に努めた。 ○ 患者サポート相談窓口看護師及び医療メディエーター(医療対話仲介者)研修を修了した事務職員を常時配置し、患者又はその家族等からの医療・福祉に関する相談体制の充実を図った結果、相談件数は5,997件となり、前年度より増加した。 ○ 平成29年度に引き続き、入院ベッド40台の更新を行うとともに、中長期修繕計画に基づき、病棟洗髪台の改修を行う等、院内環境の整備を行った。 また、看護部を中心としたワーキングチームを立ち上げ、外来及び病棟の患者用トイレ・浴室・洗面台の改修に係る検討を開始した。 ○ 病棟における夜間配置の看護補助者を8人増員し、高齢・認知症患者の見守り体制を強化するなど、夜間の看護ケア充実を図った。 ○ 大学のコーラスグループ等の協力により、院内コンサートを定期的実施したほか、毎月1回、ボランティアの協力を得て、花の植替え等花壇の手入れ作業を行った。 ○ 院内ボランティア(登録者2人)による外来での患者の世話、入院患者の話し相手、認知症患者の見守り等、患者とのふれあいを大切に活動により、患者視点のきめ細やかな患者サービスの提供が図られた。 <p>【実績値】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 20%;">指標</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">福岡市民病院</th> </tr> <tr> <th style="width: 30%;">平成29年度 実績値</th> <th style="width: 30%;">平成30年度 実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者満足度調査における平均評価点数(100点満点)</td> <td style="text-align: center;">90.1</td> <td style="text-align: center;">89.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容等</p>	指標	福岡市民病院		平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	患者満足度調査における平均評価点数(100点満点)	90.1	89.6	2	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 患者サービスの向上や快適な療養環境を提供するため、患者サポート相談窓口の体制強化、中長期修繕計画に基づく院内環境の整備など、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。
指標		福岡市民病院										
	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値										
患者満足度調査における平均評価点数(100点満点)	90.1	89.6										

中期目標(項目)	<p>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>2 患者サービス (2) 情報発信</p>
----------	--

中期計画	年度計画
<p>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>2 患者サービス</p> <p>(2) 情報発信</p> <p>ホームページや広報誌の発行等を通じて、病院のもつ機能や治療実績等、積極的な情報発信に取り組むとともに、安心して受診できるように、市民に開かれた病院づくりに努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 診療内容、医療サービスや、「病院指標（独自指標を含む）」に示される治療実績などについて、診療情報誌、季刊誌、各科診療案内、ホームページ等を活用してわかりやすい情報発信に取り組むとともに、患者が安心して受診できるように、市民に開かれた病院づくりに努める。 ○ 院内における掲示や広報物等について、視認性の向上や集約化等による効果的な情報発信に努める。 ○ こども病院について、参加・体験型イベント「こども病院フェスタ」の開催を通じて、さらなる認知度の向上を図る。

中期目標(内容)	ホームページや広報誌等により，病院の役割や医療内容等を積極的に情報発信するなど，市民に開かれた病院づくりに努めること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
<p>○ 市民や医療関係者等に対して最新の病院情報を発信するとともに、「病院指標」をホームページに公開し，一般の人にもわかりやすい解説に努めた。</p> <p>○ 福岡市立こども病院においては，市民や医療関係者が病院への理解や健康への関心を高めることを目的に，SNS（フェイスブック）の活用を開始し，幅広い情報をリアルタイムに発信するとともに，1階外来にデジタルサイネージを2台導入するなど，情報の集約化や視認性の向上を図り，効果的な情報発信に努めた。</p> <p>また，福岡市立こども病院コミュニティプログラムの一環として，地域の子ども（孫）たちの健康を維持することを目的に，小児医療のプロフェッショナルによる生涯学習講座 C G G（Child Grandchild Good-Care）プログラムを開催し，8月に病院見学会，2月に「こどもの肥満」をテーマに照葉公民館において講演会を実施した。</p> <p>さらに，参加・体験型イベント「こども病院フェスタ」を開催し，昨年度を上回る2,300人の来場者を得るなど，市民に開かれた病院づくりに努めた。</p> <p>○ 福岡市民病院においては，「病院指標」に加え，日本病院会「Q I（医療の質）プロジェクト」及び当院独自に設定した臨床指標（31項目）の情報を更新するとともに，患者用クリニカルパスの公開を行い，患者が安心して受診できる情報発信に取り組んだ。</p> <p>また，1928年の市立松原病院設立を起点として，福岡市民病院の歴史を「福岡市民病院 90周年記念誌」としてまとめ，発刊した。</p>	1	3	3	○ 福岡市立こども病院においては，情報のリアルタイム発信，情報集約化や視認性向上の取組み，福岡市民病院においては，「福岡市民病院90周年記念誌」を発刊するなど市民にわかりやすい情報発信に努めており，年度計画を順調に実施していると判断されるため，「評価3」とする。

中期目標(項目)	<p>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>3 医療の質の向上 (1) 病院スタッフの確保と教育・研修</p>
----------	--

中期計画	年度計画
<p>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>3 医療の質の向上</p> <p>(1) 病院スタッフの確保と教育・研修</p> <p>① 魅力的な職場づくりを推進し、優れた人材の確保に努める。</p> <p>② 院内研修の充実や外部の専門研修等を活用し、職員の資質向上を図る。</p> <p>③ 積極的に職員に資格取得を奨励し、専門職としての知識・技術の向上を図る。また、資格取得を支援する制度の充実に努める。</p>	<p>ア 福岡市立こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 看護師については、意欲ある人材を確保するため、看護学生等への看護体験や病院見学を通じて積極的に病院のPRを行うとともに、教育プログラムに基づき、専従教育担当職員による新人看護職員等への研修を重点的に実施するなど、職員の資質向上に努める。 ○ 年休の取得率向上や時間外勤務の縮減など職員のワーク・ライフ・バランスに取り組み、魅力的な職場づくりを推進し、優れた人材の確保に努める。 ○ 新規採用職員を対象とした情報セキュリティや人権、接遇などの研修の開催を始め、各種院内研修について、外部講師の活用などで内容の充実を図り、受講促進に努める。 ○ スタッフの専門性や医療技術の向上を図るため、職員の資格取得を積極的に奨励するとともに、看護師については、認定看護師等資格取得支援制度の活用を促し、有資格者の拡大を図る。 ○ 意欲ある研修医等の確保を目的として、ソーシャルネットワークサービスを活用し、カンファレンスや研修会、教育プログラム等の情報発信に努める。

中期目標 (内容)	医療水準を向上させるため、医師や看護師を始め、優れた人材の確保に努めること。 また、研修体制の充実などにより、スタッフの専門性や医療技術の向上を図ること。
--------------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
<p>ア 福岡市立こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 意欲ある人材を確保するため、看護学生等を対象とした「インターンシップ・病院説明会」を11回開催し、225人(前年度:6回開催185人)を受け入れるとともに、看護学実習生について、8校13課程444人(前年度:11校13課程450人)を受け入れるなど、当院に就職を希望する学生の確保に努めた。 また、専従教育担当職員が中心となり、新人看護職員、新任看護職員等を対象とした研修を計画的に開催し、看護職員の資質向上に努めた。 さらに、他施設の小児医療に関わる新人看護職員を対象とした小児看護研修を2回開催し、延べ61人(前年度:2回開催延べ52人)の参加を得るなど、小児専門病院としての役割遂行に努めた。 ○ 有期職員や小児科専攻医の募集情報、初期研修医や医学部生を対象とした講習会等の情報をフェイスブックに掲載するなど、SNSを活用し、人材確保に努めた。 ○ 年次有給休暇の取得率向上や時間外勤務の縮減など職員のワーク・ライフ・バランスに対する意識の向上を図るため、新たにワーク・ライフ・バランス委員会を立ち上げ、検討を進めた。 ○ 職員の英語に対する意識向上を図るため、新たにTOEICの受験支援制度を整備した。また、看護師について、専門職としての知識・技術の向上を図るため、認定看護師等育成支援計画に基づき、資格取得の支援を行った。 【資格取得】 手術看護認定看護師1人 【受講終了】 認定看護管理者教育課程サードレベル1人 ○ 職員の資質向上を図るため、ハラスメントや人権などの各種研修を行ったほか、医師の人材確保を図るため、初期研修医や医学部学生を対象とした小児医療に関する講習会(Fukuoka CHOPPS)を開催した。 ○ 整形外科外来において、外来診療日に医師事務作業補助者を配置し、電子カルテの代行入力等を開始するなど、医師の作業負担軽減に努めた。 	2	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「インターンシップ・病院説明会」の開催や看護実習生受入などの人材確保に向けた取組み、新人・新任看護師を中心とした研修、有資格者拡大などに取り組んだことにより、年度計画どおり病院スタッフの確保及び資質向上が図られた。 ○ 「インターンシップ・病院説明会」の開催の増加やSNSを活用した人材募集などの取組みにより、看護師の採用において応募者が増加し倍率が上昇したことを評価し、年度計画を上回って実施していると判断し、「評価4」とする。

中期目標(項目)	<p>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>3 医療の質の向上 (1) 病院スタッフの確保と教育・研修</p>
----------	--

中期計画	年度計画
<p>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>3 医療の質の向上</p> <p>(1) 病院スタッフの確保と教育・研修</p> <p>① 魅力的な職場づくりを推進し、優れた人材の確保に努める。</p> <p>② 院内研修の充実や外部の専門研修等を活用し、職員の資質向上を図る。</p> <p>③ 積極的に職員に資格取得を奨励し、専門職としての知識・技術の向上を図る。また、資格取得を支援する制度の充実に努める。</p>	<p>イ 福岡市民病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医師，看護師を始め職種毎の定数管理を確実にを行い，職員の適正数の確保に努める。 ○ タスクシフティングや当直時の救急患者対応の負担軽減等，「医師の働き方改革」への対応をはじめ，ワーク・ライフ・バランスの推進に継続的に取り組み，年休の取得率向上や時間外勤務の縮減に努め，職員が働きやすい職場環境づくりを推進し，優れた人材の確保に努める。 ○ 新規採用職員を対象とした情報セキュリティや人権，接遇研修のほか，全職員を対象とした医療安全管理体制確保，院内感染対策，保険診療に関する研修等を実施するなど，院内研修の充実を図るとともに，外部の専門研修等も活用しながら職員の資質向上を図る。 ○ 看護部においては，認定看護師等資格取得支援制度を活用した積極的な資格取得を奨励し，専門職としての知識・技術の向上を図る。 また，看護部以外の部門においても，専門職としての知識・技術の向上を図るため，資格取得支援制度の充実に努める。

中期目標 (内容)	医療水準を向上させるため、医師や看護師を始め、優れた人材の確保に努めること。 また、研修体制の充実などにより、スタッフの専門性や医療技術の向上を図ること。
--------------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ○ 看護師について7対1看護基準を維持するとともに、職員の育児休業等による欠員に対して、代替職員の採用を適宜行うなど職種毎の定数管理を確実に行った。また、医師については、救急医療体制のさらなる充実を図るため救急専門医を増員するなど、高度専門医療、高度救急医療の提供に必要な職員数の確保に努めた。 ○ 救急専門医3人によるシフト制勤務(8:30~17:00, 14:30~23:00)を導入し、17時以降の当直医の負担軽減を図った。また、夜間配置の看護補助者を増員し、夜間の看護ケア充実とともに、夜勤を行う看護師の負担軽減を図った。 ○ 院内のワーク・ライフ・バランス推進委員会において、平成29年度に引き続き、年次有給休暇の取得率向上に取り組むなど、職員が長く働き続けられる職場環境づくりを推進した。 ○ 新規採用職員を対象として、情報セキュリティ、人権及び接遇について研修を実施するとともに、全職員を対象として、医療安全管理体制確保、院内感染対策、保険診療に係る研修、BLS(心肺停止または呼吸停止に対する1次救命処置)研修等の教育研修を実施するなど、院内研修の充実を図った。 ○ 専門職としての知識・技術の向上を図るため、認定看護師等資格取得支援制度の利用を促進し、各種資格取得等が図られた。特定行為研修についても2人(呼吸器関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連)の受講が修了した。 【資格取得者】 ・専門看護師 がん看護1人 ・認定看護師 救急看護1人、認知症看護1人 【教育課程修了者】 ・認定看護師 集中ケア看護1人、皮膚・排泄ケア看護1人 ・特定行為研修(2分野) 2人 ※当該支援制度による資格取得者 専門看護師1人 認定看護師17人(10分野) 認定看護管理者サードレベル 2人	2	4	4	○ 医師、看護師、その他の職員や新規採用職員を含め、適正数の確保と働きやすい職場づくりに向けた様々な取組、院内研修の充実が図られたことにより、年度計画どおり病院スタッフの確保及び資質向上が図られた。 ○ 救急専門医の増員とシフト制勤務の導入、夜間看護補助者増員による看護体制の充実や夜勤看護師の負担軽減などの取組みを評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践
----------	--

中期計画	年度計画																						
<p>第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>3 医療の質の向上</p> <p>(2) 信頼される医療の実践</p> <p>① 院内感染防止マニュアルの整備や定期的な院内感染対策委員会の開催などによる院内感染防止対策を徹底するとともに、医療安全管理者を中心としたリスクマネジメントや医療従事者への教育・研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。</p> <p>② クリニカルパスを活用した治療内容の可視化や十分な説明に基づくインフォームド・コンセント/アセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。</p> <p>③ 薬剤師による薬剤管理指導や管理栄養士による栄養食事指導・相談を充実させ、安全・安心な医療を提供する。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標</th> <th colspan="2">福岡市立こども病院</th> </tr> <tr> <th>平成27年度 実績値</th> <th>平成32年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤管理指導件数(件)</td> <td style="text-align: center;">5,803</td> <td style="text-align: center;">9,100</td> </tr> <tr> <td>栄養食事指導・相談件数(件)</td> <td style="text-align: center;">476</td> <td style="text-align: center;">650</td> </tr> </tbody> </table>	指標	福岡市立こども病院		平成27年度 実績値	平成32年度 目標値	薬剤管理指導件数(件)	5,803	9,100	栄養食事指導・相談件数(件)	476	650	<p>ア 福岡市立こども病院</p> <p>○ 日本小児総合医療施設協議会における臨床評価指標事業への参加を継続し、小児医療の質の向上に取り組む。</p> <p>○ 感染対策室、院内感染対策委員会及び感染制御チーム(ICT)の連携により、院内感染防止対策を徹底する。 また、医療安全管理者を中心としたTeam STEPPS(※)の推進によるリスクマネジメントや、医療従事者への教育・研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ※ Team STEPPS (Team Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety) 医療のパフォーマンスと患者安全を高めるために、チームで取り組む戦略と方法。良好なチームワークを確立し、医療行為全般のパフォーマンス(医療行為の経過から結果までの全過程の行い方)と患者の安全性を高めるために、米国において国防総省や航空業界などの事故対策実績を元に作成されたチーム戦略。</p> <p>○ クリニカルパスの充実により、ケアの標準化、均質化を図り、医療の質の向上に努めるとともに、その活用による治療内容の可視化や十分な説明に基づくインフォームド・コンセント/アセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。</p> <p>○ 薬剤師による薬剤管理指導や管理栄養士による栄養食事指導・相談を充実させるとともに、多職種による栄養サポートチーム(NST)により栄養管理の充実を図り、安全・安心な医療を提供する。</p> <p>○ 入院中の患者の健やかな発達をサポートするため、歯科衛生士・保育士・管理栄養士による「歯育・保育・食育教室」を継続するとともに、1型糖尿病の患者に対して食事療養を支援するための「糖尿病教室」を継続する。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標</th> <th colspan="2">福岡市立こども病院</th> </tr> <tr> <th>平成28年度 実績値</th> <th>平成30年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤管理指導件数(件)</td> <td style="text-align: center;">8,931</td> <td style="text-align: center;">8,100</td> </tr> <tr> <td>栄養食事指導・相談件数(件)</td> <td style="text-align: center;">698</td> <td style="text-align: center;">900</td> </tr> </tbody> </table>	指標	福岡市立こども病院		平成28年度 実績値	平成30年度 目標値	薬剤管理指導件数(件)	8,931	8,100	栄養食事指導・相談件数(件)	698	900
指標		福岡市立こども病院																					
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値																					
薬剤管理指導件数(件)	5,803	9,100																					
栄養食事指導・相談件数(件)	476	650																					
指標	福岡市立こども病院																						
	平成28年度 実績値	平成30年度 目標値																					
薬剤管理指導件数(件)	8,931	8,100																					
栄養食事指導・相談件数(件)	698	900																					

中期目標(内容)	<p>市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、院内感染防止対策を確実に実施するとともに、医療事故に関する情報の収集・分析に努め、医療安全対策の徹底を図ること。</p> <p>また、患者が自ら受ける医療の内容を理解し、納得の上で自分に合った治療法を選択できるよう、十分な説明に基づくインフォームド・コンセントを徹底するなど、患者中心の医療を実践すること。</p>
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価												
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど											
<p>ア 福岡市立こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 専従の感染管理認定看護師を配置した感染対策室、院内感染対策委員会及び感染制御チーム（ICT）の連携を推進するとともに、地域の他医療機関との合同カンファレンスの開催や相互サーベイランスの実施など、感染防止対策の強化を図った。 また、医療安全管理室による、リスクマネジメントや医療従事者への教育を目的とした Team STEPPS 推進の研修会を全職員向けに計74回実施し、医療安全対策の強化を図った。 ○ クリニカルパス委員会を中心とした普及活動により、クリニカルパスの数は平成29年度から5種類（2疾患）増加し36種類（42疾患）となり、使用率も28.2%から39.2%に上昇し、ケアの標準化、均質化による医療の質の向上に寄与した。 ○ 薬物療法の適正化と医療安全の推進のため、集中治療を要する重症患者に対するチーム医療へ積極的に関与した。特に、重症患者の多いP I C U（小児集中治療室）に専任の薬剤師を配置したほか12月からはH C Uにも薬剤師を配置し、ハイリスク薬の監査や中心静脈栄養の輸液調整等を実施した。これにより、退院時の薬剤管理指導は相対的に減少することとなったが、よりリスクの高い分野での活動を重点化でき、安全・感染リスクの低減に取り組むことができた。 ○ 栄養食事指導について、患者が安全な食事治療に取り組めるよう積極的にサポートを行い、食物アレルギー患者への指導件数は866件を超えた。 ○ 「歯育・保育・食育教室」及び「糖尿病教室」を開催し、患者の健やかな発達をサポートする活動に継続的に取り組んだ。 ○ 医療安全の推進及び業務の効率化を目的に「手順共通化プロジェクトチーム」を立ち上げ、鎮静指示をはじめ、診療科・部署ごとに存在する様々な差異について共通化を図る取り組みを開始した。 <p>【実績値】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標</th> <th colspan="2">福岡市立こども病院</th> </tr> <tr> <th>平成29年度 実績値</th> <th>平成30年度 実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤管理指導件数 (件)</td> <td style="text-align: center;">7,592</td> <td style="text-align: center;">5,650</td> </tr> <tr> <td>栄養食事指導・相談 件数(件)</td> <td style="text-align: center;">1,042</td> <td style="text-align: center;">1,457</td> </tr> </tbody> </table>	指標	福岡市立こども病院		平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	薬剤管理指導件数 (件)	7,592	5,650	栄養食事指導・相談 件数(件)	1,042	1,457	2	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 院内感染防止対策の徹底、医療安全対策の強化、クリニカルパスの充実による医療の質向上など、患者を中心とした安心・安全な医療が年度計画どおりに提供された。 ○ 一部の指標で目標値を下回っているものの、クリニカルパス普及活動によるパス使用率の向上、小児専門病院で導入事例が少ないP I C U、H C Uへ専任薬剤師配置、食物アレルギー患者への栄養指導の高い実績などの取組みを評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。
指標		福岡市立こども病院													
	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値													
薬剤管理指導件数 (件)	7,592	5,650													
栄養食事指導・相談 件数(件)	1,042	1,457													

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践
----------	--

中期計画	年度計画
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践 ① 院内感染防止マニュアルの整備や定期的な院内感染対策委員会の開催などによる院内感染防止対策を徹底するとともに、医療安全管理者を中心としたリスクマネジメントや医療従事者への教育・研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ② クリニカルパスを活用した治療内容の可視化や十分な説明に基づくインフォームド・コンセント/アセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ③ 薬剤師による薬剤管理指導や管理栄養士による栄養食事指導・相談を充実させ、安全・安心な医療を提供する。	イ 福岡市民病院 ○ 院内感染対策委員会及び感染制御チーム(ICT)の連携により、院内感染防止対策を徹底するとともに、他施設への感染専門医によるコンサルタント及び当院チームとの情報交換等を通じさらなる改善を図る。また、医療安全管理者を中心としたリスクマネジメントや医療従事者への教育・研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ○ クリニカルパスの充実により、ケアの標準化・均質化並びに医療の質の向上に努める。また、患者用パスの病院ホームページへの公開による治療内容の可視化や、インフォームド・コンセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ○ 薬剤師による各種監査、病棟の薬品管理、服薬指導等を行い、安全管理体制の徹底に努める。また、管理栄養士による栄養食事指導、栄養サポートチーム(NST)による栄養管理の充実を図るとともに、平成29年度に立ち上げた認知症ケアチーム(DST)を中心に、医療スタッフの認知症対応能力向上を図るなど、安全・安心な医療を提供する。 ○ 日本病院会主催の「QIプロジェクト」等に引き続き参加し、臨床指標についてベンチマークによる比較評価や、経時的なデータ推移の分析等を行い、医療の質の向上を図る。

中期目標 (内容)	<p>市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、院内感染防止対策を確実に実施するとともに、医療事故に関する情報の収集・分析に努め、医療安全対策の徹底を図ること。</p> <p>また、患者が自ら受ける医療の内容を理解し、納得の上で自分に合った治療法を選択できるよう、十分な説明に基づくインフォームド・コンセントを徹底するなど、患者中心の医療を実践すること。</p>
--------------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
<p>イ 福岡市民病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 感染症専門医を中心に、院内感染対策委員会及び感染制御チーム（ICT）の連携により院内感染防止対策を徹底するとともに、他病院との共同カンファレンスや相互ラウンド等を通じて、耐性菌検出状況や抗菌薬適正使用への取組み、感染対策に関する情報交換、第三者的視点からの相互評価等を行った。（共同カンファレンス4回、外部参加者数137人） ○ 本院が主体となって医療安全対策にかかる地域連携の取組みを開始し、外部の2医療機関を訪問して評価指導を行うとともに、4医療機関との間で医療安全対策相互評価を行うなどさらなる改善に取り組んだ。 ○ 医療安全管理指針を改訂するとともに、医師の医療安全に対する意識向上に重点的に取り組んだ結果、インシデント報告件数が大幅に増加し、特に医師の報告件数は全体の10.3%を占めるようになった（※）。 （全報告件数：29年度685件→30年度818件、うち医師報告件数：29年度23件→30年度84件） ※インシデント報告件数は病床数の5倍、うち医師の報告件数が1割を占めていることが望ましい（週刊医学界新聞第2882号） ○ M&Mカンファレンス（Mortality&Morbidity：死亡例・重症例・見逃し症例等を検討し、再発防止のためのシステムや環境の改善を行うカンファレンス）において、予期せぬ合併症の症例についても検証を行うため、随時開催から月に1回の定期開催に変更した。 ○ 患者にとってよりわかりやすいパスの作成を目標に、患者用パスの表現を統一するなど改善を計った。 ○ 薬剤師による処方監査・調剤監査や持参薬の確認、病棟の薬品管理、服薬指導を行うなど安全管理体制の徹底に努め、薬剤管理指導件数は目標を達成した。また、投薬事故防止活動としてのプレアポイント報告（薬剤師の関与により副作用等の患者にとっての不利益を未然に回避すること）を継続して実施した。 	2	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 院内感染防止対策を徹底、医療安全管理指針の改定など医療安全対策の強化、クリニカルパス充実や認知症対応能力の向上による医療の質向上など、患者を中心とした安心・安全な医療が年度計画どおりに提供された。 ○ 一部の指標で目標値を下回っているものの、福岡市民病院が主体となった医療安全対策における地域連携の開始、インシデント報告件数のうち望ましいとされる割合を超える医師報告件数の実績などを評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画			年度計画																								
<p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標</th> <th colspan="2">福岡市民病院</th> </tr> <tr> <th>平成27年度 実績値</th> <th>平成32年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤管理指導件数 (件)</td> <td>9,713</td> <td>9,400</td> </tr> <tr> <td>栄養食事指導・相 談件数 (件)</td> <td>1,220</td> <td>1,200</td> </tr> </tbody> </table>			指標	福岡市民病院		平成27年度 実績値	平成32年度 目標値	薬剤管理指導件数 (件)	9,713	9,400	栄養食事指導・相 談件数 (件)	1,220	1,200	<p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標</th> <th colspan="2">福岡市民病院</th> </tr> <tr> <th>平成28年度 実績値</th> <th>平成30年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤管理指導件数 (件)</td> <td>9,732</td> <td>9,350</td> </tr> <tr> <td>栄養食事指導・相 談件数 (件)</td> <td>1,140</td> <td>1,200</td> </tr> </tbody> </table>			指標	福岡市民病院		平成28年度 実績値	平成30年度 目標値	薬剤管理指導件数 (件)	9,732	9,350	栄養食事指導・相 談件数 (件)	1,140	1,200
指標	福岡市民病院																										
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値																									
薬剤管理指導件数 (件)	9,713	9,400																									
栄養食事指導・相 談件数 (件)	1,220	1,200																									
指標	福岡市民病院																										
	平成28年度 実績値	平成30年度 目標値																									
薬剤管理指導件数 (件)	9,732	9,350																									
栄養食事指導・相 談件数 (件)	1,140	1,200																									

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価												
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど											
<p>○ 管理栄養士による栄養食事指導については、1件あたりの指導時間を増加させるなど内容の充実を図った結果、目標値には届かなかったが、延指導時間数としては大幅に増加した。</p> <p>また、外来において認定看護師を中心に医師や管理栄養士等と連携して、糖尿病と診断された患者に対する栄養食事指導や生活指導を実施するなど、糖尿病透析予防指導等に積極的に取り組んだ。</p> <p>○ 多職種により構成する認知症ケアチームにより、週1回のラウンド及びカンファレンスを実施し、認知症の症状悪化を予防するとともに、身体疾患の円滑な治療に取り組んだ。</p> <p>○ 日本病院会主催の「Q Iプロジェクト」等に引き続き参加し、褥瘡発生率や救急車・ホットライン応需率等の臨床指標について、全国平均値との比較評価を行い、毎月の所属長会議において情報共有する等、医療の質の向上に取り組んだ。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標</th> <th colspan="2">福岡市民病院</th> </tr> <tr> <th>平成29年度 実績値</th> <th>平成30年度 実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤管理指導件数 (件)</td> <td>10,212</td> <td>9,509</td> </tr> <tr> <td>栄養食事指導・相談件数 (件)</td> <td>1,070</td> <td>1,033</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 栄養食事指導については、平成28年度診療報酬改定にて1件あたりの指導時間が「1回15分以上」から、「初回30分以上・2回目以降20分以上」に改定された。</p>	指標	福岡市民病院		平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	薬剤管理指導件数 (件)	10,212	9,509	栄養食事指導・相談件数 (件)	1,070	1,033				
指標		福岡市民病院													
	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値													
薬剤管理指導件数 (件)	10,212	9,509													
栄養食事指導・相談件数 (件)	1,070	1,033													

中期目標(項目)	<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項</p> <p>1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実</p>
----------	---

中期計画	年度計画
<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実</p> <p>① 理事会を中心に、適正かつ効率的な事業運営を図るため、外部理事等の助言に基づく民間的経営手法も取り入れながら自律的な法人経営を行う。</p> <p>② 病院長のリーダーシップの下、医療情勢の変化や患者ニーズ等に迅速かつ的確に対応できる機動性の高い病院経営を行うとともに、市立病院機構全体として、長期的な視点を踏まえ、一体的な運営管理を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 理事会を中心に、適正かつ効率的な事業運営を図るため、外部理事等の助言に基づく民間的経営手法も取り入れながら自律的な法人経営を行う。 ○ 病院長のリーダーシップの下、医療情勢の変化や患者ニーズ等に迅速かつ的確に対応できる機動性の高い病院経営を行うとともに、市立病院機構全体として、長期的な視点を踏まえ、一体的な運営管理を行う。 ○ こども病院においては、平成29年度に戦略的分析チーム（S a T）を発足しており、定期的なプレゼンテーションを通じて、病院運営や経営改善に対する提案を行っていく。

中期目標(内容)	地方独立行政法人制度の特長を活かし、各病院が自らの特性や実情を踏まえ、より機動的に業務改善ができるよう、各病院において病院長がリーダーシップを発揮し、自律性を発揮できる運営管理体制の充実を図ること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
<ul style="list-style-type: none"> ○ 市立病院機構の運営を的確に行うため、理事会を計9回開催し、理事会の決定方針に沿った運営を行った。 ○ 両病院ともに、病院長のリーダーシップの下、医療情勢の変化や患者のニーズに効果的な対応ができるよう、適宜、執行部会議（福岡市立こども病院）や経営五役会議（福岡市民病院）等を開催し、迅速な協議や意思決定、情報の共有化を図るとともに、病院の実態に則した機動性の高い病院経営に取り組んだ。 また、運営本部と両病院合同による経営会議及び運営調整会議を毎月開催し、経営状況の把握や年度計画の進捗状況等を管理し、機構全体的な視点から、業務執行の適確性の検証はもとより、経済性・効率性の追求を徹底するなど、市立病院として適切な運営に取り組んだ。 ○ 福岡市立こども病院においては、病院運営や経営改善に資することを目的とした戦略的分析チーム（S a T）による活動が行われ、計8回のプレゼンテーションを実施し、事務作業の軽減化など6つの提案が採用、検討を開始した。 	1	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 病院長のリーダーシップの下、機動性の高い病院経営が行われており、また、業務執行の適格性の検証、経済性・効率性の追求を徹底するなど地方独立行政法人制度の特長を活かした運営管理体制の充実に努めており、年度計画を順調に実施していると判断できるため、「評価3」とする。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">中期目標(項目)</p>	<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項</p> <p>2 事務部門の機能強化</p>
<p style="text-align: center;">中期計画</p>	<p style="text-align: center;">年度計画</p>
<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>2 事務部門の機能強化</p> <p>① 経営状況や医療を取り巻く情報を整理・分析する能力など、事務部門に求められる専門性をさらに高めていくため、研修の充実を図るとともに、スキルアップを支援するための制度の導入を検討する。</p> <p>② 市立病院の運営に必要なノウハウ等が蓄積・継承されるよう、情報共有の徹底やOJTの充実を図るとともに、職員のキャリアプランを踏まえた人事異動を通して、事務部門のさらなる機能強化に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市立病院の運営に必要なノウハウ等が蓄積・継承されるよう、事務のマニュアル化や業務の可視化等に努め、情報共有や業務の効率化を推進する。 ○ 事務部門に求められる専門性をさらに高めていくため、研修の充実を図るとともに、テーマごとの職場内研修等の実施により、効果的なOJT (On the Job Training) に繋げる。 ○ 職員のキャリアプランを踏まえた適材適所の人事配置に努める。

中期目標(内容)	各病院の経営支援を的確に行うことができる人材や、医療を巡る環境変化に柔軟に対応できる人材を育成するため、その専門的知識やスキルを習得するための研修を計画的に実施するとともに、市立病院としてのノウハウを確実に蓄積し、事務部門のさらなる機能強化に努めること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
<ul style="list-style-type: none"> ○ 市立病院の運営に必要なノウハウ等が蓄積・継続されるよう、運営本部及び両病院の担当レベルで適宜会議等を開催し、課題解決に向けて協議、必要な見直しを行うなど、事務の簡素化・効率化等に努めた。 ○ マネジメント能力向上等を目的として、事務職、看護師及びその他の医療技術職職員を対象に、管理監督者研修を2回実施した。 ○ 事務部門全体の機能強化及び職員のキャリアプランを踏まえ、病院間における人事異動を実施した。 ○ 福岡市立こども病院において、定型業務を自動化することで職員の事務作業の軽減化を図ることを目的に、RPA (Robotic Process Automation) プロジェクトチームを立ち上げ、導入の検討を進めた。 	1	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 両病院の事務の簡素化・効率化に努めたほか、病院間における人事異動を実施し、事務部門の機能強化に努めるなど、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期目標(項目)	<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項</p> <p>3 働きがいのある職場環境づくり</p>
----------	--

中期計画	年度計画
<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>3 働きがいのある職場環境づくり</p> <p>① 職員ニーズ等を踏まえ、福利厚生 of のさらなる充実に取り組むとともに、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、育児・介護などを支援する制度の利用促進や組織全体の意識改革を図り、職員が働きやすい職場環境の整備に努める。</p> <p>② 職員のモチベーションの維持・向上を図るため、人事評価制度の改善に引き続き取り組むとともに、社会情勢の変化等に適合しつつ、職員の意欲を引き出すよう、人事・給与制度について、適宜、見直しを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員が安心して働き続けることができるよう、福利厚生 of のさらなる充実に取り組むとともに、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、制度の周知徹底はもとより、研修や会議等を通じて所属長を始め職員の意識改革を図り、育児・介護などを支援する制度の利用促進や年次有給休暇の取得率の向上、時間外勤務の縮減等に取り組む。 ○ 社会情勢の変化等を踏まえた人事・給与制度の改善に取り組む。 ○ 現在試行実施中の医師以外の管理職を対象とした目標管理制度について、その効果等を検証しながら、本格実施に向けた検討を進める。

中期目標(内容)	<p>職員の福利厚生の実現やワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取り組みを行い、職員が働きやすい職場環境の整備に努めること。</p> <p>また、職員の業績や能力を公正かつ客観的に評価できるように人事評価制度の改善を行い、職員のモチベーションの維持・向上を図ること。</p>
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
<p>○ 職員が安心して働き続けることができるよう、就学前児童を持つ職員の労働環境向上の観点から、夜間保育を継続実施するなど、福利厚生の実現に取り組んだ。</p> <p>また、年間を通じて、運営本部と両病院看護部が中心となり「看護師働き方検討会議」を開催し、業務と自己研鑽の明確化など看護師が働きやすい環境づくりのさらなる推進に向けて検討を進めた。</p> <p>○ 職員のワーク・ライフ・バランス推進の観点から、各職場において年次有給休暇の取得率の向上や時間外勤務の縮減に努めた。</p> <p>○ 社会情勢の変化等を踏まえた人事・給与制度とするため、国立病院機構の改定状況等を踏まえ、給料表の改定を行った。</p> <p>○ 医師以外の管理職を対象とする管理職目標管理制度を引き続き試行実施し、将来的には職員の業績や貢献度等を給与に反映できるよう、本格実施に向け検討を進めた。</p> <p>○ 当機構において有期職員として5年を超えて勤務し、かつ、無期労働契約への転換を申し出た「無期転換職員」について、モチベーションの維持・向上を図る観点から、休暇制度等については正規職員に準じる取扱いとする等、制度の見直しを図った。</p>	1	3	3	<p>○ 給与表の改定、「無期転換職員」の休暇制度見直しなど、職員のモチベーションの維持向上に向けた取り組みを行っており、年度計画を順調に実施していると判断できるため、「評価3」とする。</p>

中期目標(項目)	<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項</p> <p>4 法令遵守と公平性・透明性の確保</p>
----------	---

中期計画	年度計画
<p>第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>4 法令遵守と公平性・透明性の確保</p> <p>① 関係法令や内部規定の遵守などコンプライアンスを徹底するとともに、市立病院として公平性・透明性を確保した適正な病院運営を行う。</p> <p>② 個人情報の保護及び情報公開に関しては、福岡市の関係条例及び当法人の情報セキュリティポリシーに基づき、適切に対応する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種研修制度の拡充や組織の管理体制等の強化により、関係法令や内部規定の遵守などコンプライアンスを徹底する。 ○ 監事（弁護士、公認会計士）及び会計監査人による監査等の実施により、内部統制を適正に維持し、市立病院として適正な病院運営を行う。 ○ 個人情報保護及び情報資産に関しては、福岡市の関係条例等及び当法人の情報セキュリティポリシーに基づき、適切に対応するとともに、研修等を通じて職員の教育を徹底するほか、カルテ等の診療情報に関しては、診療録開示委員会を開催して開示の可否を決定する。

中期目標(内容)	<p>医療法を始めとする関係法令を遵守することはもとより、行動規範と倫理に従い、市立病院の運営を担う地方独立行政法人として、公平性・透明性を確保した病院運営を行うこと。</p> <p>また、個人情報の保護及び情報公開に関しては、福岡市個人情報保護条例（平成17年福岡市条例第103号）及び福岡市情報公開条例（平成14年福岡市条例第3号）に基づき、適切に対応すること。</p>
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
<ul style="list-style-type: none"> ○ 監督者研修などさまざまな機会を通じて職員の服務規律の指導を徹底し、法人職員として有すべき行動規範と倫理観の確立に努めた。 ○ 市立病院機構全体の業務の適正性及び効率性の検証を行うため、監事（弁護士、公認会計士）による監査を行った。 ○ 個人情報保護及び情報公開に関しては、福岡市の関係条例等及び当機構の情報セキュリティポリシーに基づき、適切に対応するとともに、研修等を通じて職員の教育を徹底した。 また、カルテ等の開示請求に対しては、診療録(カルテ)開示委員会が開示の可否を決定した(福岡市立こども病院12件、福岡市民病院55件) ○ 地方独立行政法人法改正の趣旨を踏まえ、業務方法書を変更するとともに、内部統制推進責任者の指定等、業務の適正を確保するための体制整備を進めた。 	1	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員に対する服務規律、個人情報保護等の教育・指導を徹底するとともに、地方独立行政法人法改正に基づく業務方法書の変更、監事による監査、カルテ開示委員会による開示可否など、市立病院として、公平性・透明性の確保に努めており、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期目標(項目)	<p>第3 財務内容の改善に関する事項</p> <p>1 経営基盤の強化 (1) 経営基盤の強化と運営費負担金の縮減</p>
----------	--

中期計画	年度計画																												
<p>第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 経営基盤の強化</p> <p>(1) 経営基盤の強化と運営費負担金の縮減 財務状況を踏まえ、取り組むべき課題を明確にしたうえで収支改善に取り組み、将来的にも安定した経営を行うことができるよう、さらなる経営基盤の強化を図る。 また、市立病院として求められる医療を提供しつつ、より一層の経営の効率化や健全化を進め、運営費負担金の縮減に努める。</p> <p>【目標値】 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標</th> <th colspan="2">福岡市立こども病院</th> </tr> <tr> <th>平成27年度 実績値</th> <th>平成32年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総収支比率</td> <td style="text-align: center;">99.8</td> <td style="text-align: center;">102.9</td> </tr> <tr> <td>経常収支比率</td> <td style="text-align: center;">101.9</td> <td style="text-align: center;">102.9</td> </tr> <tr> <td>医業収支比率 ※</td> <td style="text-align: center;">84.0</td> <td style="text-align: center;">85.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 平成27年度実績値については、監査法人の指摘により消費税等に係る費用計上を営業外費用から営業費用に変更しているため、平成27年度業務実績報告書における実績値とは異なる。</p>	指標	福岡市立こども病院		平成27年度 実績値	平成32年度 目標値	総収支比率	99.8	102.9	経常収支比率	101.9	102.9	医業収支比率 ※	84.0	85.8	<p>ア 福岡市立こども病院</p> <p>○ 毎週開催の執行部会議，毎月開催の運営会議において，病院の経営状況を踏まえ，取り組むべき課題を明確にしたうえで，増収及び費用削減に取り組むとともに，月次決算の実施など経営に関する情報を迅速に把握し，経営分析や他病院との比較・分析を行うなど，効率的な病院経営を行う。</p> <p>【目標値】 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標</th> <th colspan="2">福岡市立こども病院</th> </tr> <tr> <th>平成28年度 実績値</th> <th>平成30年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総収支比率</td> <td style="text-align: center;">102.6</td> <td style="text-align: center;">100.8</td> </tr> <tr> <td>経常収支比率</td> <td style="text-align: center;">107.0</td> <td style="text-align: center;">100.8</td> </tr> <tr> <td>医業収支比率</td> <td style="text-align: center;">95.9</td> <td style="text-align: center;">86.2</td> </tr> </tbody> </table>	指標	福岡市立こども病院		平成28年度 実績値	平成30年度 目標値	総収支比率	102.6	100.8	経常収支比率	107.0	100.8	医業収支比率	95.9	86.2
指標		福岡市立こども病院																											
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値																											
総収支比率	99.8	102.9																											
経常収支比率	101.9	102.9																											
医業収支比率 ※	84.0	85.8																											
指標	福岡市立こども病院																												
	平成28年度 実績値	平成30年度 目標値																											
総収支比率	102.6	100.8																											
経常収支比率	107.0	100.8																											
医業収支比率	95.9	86.2																											

中期目標(項目)	<p>第3 財務内容の改善に関する事項</p> <p>1 経営基盤の強化 (1) 経営基盤の強化と運営費負担金の縮減</p>
----------	--

中期計画	年度計画																												
<p>第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 経営基盤の強化</p> <p>(1) 経営基盤の強化と運営費負担金の縮減 財務状況を踏まえ、取り組むべき課題を明確にしたうえで収支改善に取り組み、将来的にも安定した経営を行うことができるよう、さらなる経営基盤の強化を図る。 また、市立病院として求められる医療を提供しつつ、より一層の経営の効率化や健全化を進め、運営費負担金の縮減に努める。</p> <p style="text-align: right;">【目標値】 (単位：%)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標</th> <th colspan="2">福岡市民病院</th> </tr> <tr> <th>平成27年度 実績値</th> <th>平成32年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総収支比率</td> <td style="text-align: center;">101.3</td> <td style="text-align: center;">103.2</td> </tr> <tr> <td>経常収支比率</td> <td style="text-align: center;">106.0</td> <td style="text-align: center;">103.2</td> </tr> <tr> <td>医業収支比率 ※</td> <td style="text-align: center;">92.1</td> <td style="text-align: center;">94.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 平成27年度実績値については、監査法人の指摘により消費税等に係る費用計上を営業外費用から営業費用に変更しているため、平成27年度業務実績報告書における実績値とは異なる。</p>	指標	福岡市民病院		平成27年度 実績値	平成32年度 目標値	総収支比率	101.3	103.2	経常収支比率	106.0	103.2	医業収支比率 ※	92.1	94.8	<p>イ 福岡市民病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高度救急医療体制を推進し、脳疾患・循環器疾患を中心に重篤な救急患者の受入及び手術件数の増加を図ることで、診療単価の向上並びに収益の確保に努める。 ○ 高度専門医療を提供するうえで必要となる資源投入を行うとともに、経営効率化を念頭に置き、施設基準遵守を担保する範囲内での人員体制の最適化を図る。 <p style="text-align: right;">【目標値】 (単位：%)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標</th> <th colspan="2">福岡市民病院</th> </tr> <tr> <th>平成28年度 実績値</th> <th>平成30年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総収支比率</td> <td style="text-align: center;">100.0</td> <td style="text-align: center;">100.4</td> </tr> <tr> <td>経常収支比率</td> <td style="text-align: center;">100.1</td> <td style="text-align: center;">100.4</td> </tr> <tr> <td>医業収支比率</td> <td style="text-align: center;">91.2</td> <td style="text-align: center;">92.1</td> </tr> </tbody> </table>	指標	福岡市民病院		平成28年度 実績値	平成30年度 目標値	総収支比率	100.0	100.4	経常収支比率	100.1	100.4	医業収支比率	91.2	92.1
指標		福岡市民病院																											
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値																											
総収支比率	101.3	103.2																											
経常収支比率	106.0	103.2																											
医業収支比率 ※	92.1	94.8																											
指標	福岡市民病院																												
	平成28年度 実績値	平成30年度 目標値																											
総収支比率	100.0	100.4																											
経常収支比率	100.1	100.4																											
医業収支比率	91.2	92.1																											

中期目標(内容)	<p>福岡市立こども病院の移転・開院を踏まえ、将来的にも安定した経営を行うことができるよう経営基盤を強化すること。</p> <p>また、福岡市の厳しい財政状況を踏まえると、引き続き市立病院機構全体の運営費負担金の縮減に向けたさらなる取組みが求められることから、より一層の経営の効率化や健全化を進めること。</p>
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価															
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど														
<p>イ 福岡市民病院</p> <p>○ 救急専門医の増員等による救急部の受入体制強化や、手術室等の運用の効率化、入退院支援の強化に取り組むなど診療体制の充実を図った結果、救急搬送件数や手術件数が前年度と比較して増加し、病床利用率も目標値を上回った。</p> <p>その結果、医業収益は60億6,500万円余となり、前年度より3億7,900万円余上回る増収となった。</p> <p>○ エックス線透視装置の更新等、高度専門医療を提供する上で必要となる資源投入を行うとともに、施設基準遵守を担保する範囲内で人員体制の最適化を図った。</p> <p>【実績値】 (単位：%)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 20%;">指標</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">福岡市民病院</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">平成29年度 実績値</th> <th style="text-align: center;">平成30年度 実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総収支比率</td> <td style="text-align: center;">102.4</td> <td style="text-align: center;">100.6</td> </tr> <tr> <td>経常収支比率</td> <td style="text-align: center;">102.4</td> <td style="text-align: center;">100.6</td> </tr> <tr> <td>医業収支比率</td> <td style="text-align: center;">93.4</td> <td style="text-align: center;">92.6</td> </tr> </tbody> </table>	指標	福岡市民病院		平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	総収支比率	102.4	100.6	経常収支比率	102.4	100.6	医業収支比率	93.4	92.6	2	3	3	<p>○ 診療体制の充実、人員体制の最適化を図った結果、経営3指標は前年度を下回ったものの目標値を達成し、経営基盤の強化が図られていることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。</p>
指標		福岡市民病院																
	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値																
総収支比率	102.4	100.6																
経常収支比率	102.4	100.6																
医業収支比率	93.4	92.6																

中期目標(項目)	<p>第3 財務内容の改善に関する事項</p> <p>1 経営基盤の強化 (2) 投資財源の確保</p>
----------	--

中期計画	年度計画
<p>第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 経営基盤の強化</p> <p>(2) 投資財源の確保</p> <p>独立採算制を前提とした公営企業型地方独立行政法人の会計制度の趣旨に鑑み、今後の投資計画を踏まえた自己財源の確保に努める。</p>	<p>独立採算制を前提とした公営企業型地方独立行政法人の会計制度の趣旨に鑑み、今後の投資計画を踏まえた自己財源の確保に努める。</p>

中期目標(内容)	施設整備や高額医療機器の更新など、今後の投資計画を踏まえながら、自己財源の確保に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己財源の確保対策として、収支改善による利益の確保とともに、複数の金融機関を対象に定期預金の利率の入札を継続して実施し、積立金運用益の確保を図った。 ○ 価格交渉の徹底等により必要な医療機器を確保しつつ費用の抑制を図るなど、効率的に予算を執行し、今後の投資計画を踏まえた自己財源の確保に努めた。 	1	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 収支改善による利益確保や価格交渉の徹底等による医業費用の抑制などにより、自己財源の確保が認められることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期目標(項目)	<p>第3 財務内容の改善に関する事項</p> <p>2 収支改善 (1) 収益確保</p>
----------	--

中期計画	年度計画
<p>第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>2 収支改善</p> <p>(1) 収益確保</p> <p>① 診療体制の充実等による医療の高度化に取り組むとともに、効率的な病床管理や高額医療機器の稼働率向上に努め、収入増を図る。</p> <p>② 診療報酬改定等の医療情勢の変化に迅速に対応して適切な施設基準の取得を行い、収入の確保に努める。</p> <p>③ 診療報酬請求に係るチェック体制を強化するとともに、医療費の未収金発生防止や確実な回収に努める。</p>	<p>ア 福岡市立こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 周産期センターにおいて、病床再編（NICU 18床⇒21床，GCU 18床⇒15床）により重症患者の受入体制を強化し、効率的かつ適切な病床管理を行う。 ○ 平成29年度に看護職員の増員により受入体制を整備したHCUにおいて、重症患者の円滑な受入に取り組み、稼働率の向上に努める。 ○ 診療報酬改定を踏まえ、適切な施設基準の取得や維持管理に努める。 ○ 保険診療検討ワーキングチームを中心に病院全体で診療報酬プロセスの点検を行い、診療報酬請求の精度向上を図る。また外部からの精度調査の活用を検討する。 ○ 医事課職員やMSWによる患者相談の充実等により、医療費の未収金発生防止に努めるとともに、悪質な滞納者には、裁判所の支払督促や訴訟により未収金の確実な回収に努める。

中期目標(内容)	<p>診療体制の充実や効率的な病床利用及び高度医療機器の稼働率向上に努めるとともに、診療報酬改定等の医療環境の変化に的確に対応し、安定的な収益の確保に努めること。</p> <p>また、医療費の未収金発生防止や確実な回収に努めること。</p>
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
<p>ア 福岡市立こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 重症患者の円滑な受入体制を強化することを目的として、NICU21床、GCU18床へ病床の再編を実施し、重症度の高い症例を積極的に受け入れた結果、病床利用率はNICU96.7%、GCU89.5%と高い水準で稼働するとともに、NICUの入院料加算算定率は87.6%となった。 ○ HCUについては、専任の医師1人を配置し、先天性心臓病に対する術前術後管理を効率的・効果的に行った。 また、重症アレルギー患者を対象に負荷試験を開始するなど、効率的な病床稼働へ向けた取組みを進めた結果、病床利用率は85.7%となった。 ○ 診療報酬改定等を踏まえ、感染対策室においては、AST(抗菌薬適正使用支援チーム)を発足し、「抗菌薬適正使用支援加算」の算定を開始した。 また、安全管理室においては、医療安全対策の強化を目的に、他医療機関との相互ラウンドによる評価を行い、「医療安全対策地域連携加算」の算定を開始した。 ○ 院内の保険診療検討ワーキングチームを中心に、病院全体で診療報酬請求プロセスの改善活動を実施した結果、一次査定率を0.10%に抑えることができた。 また、レセプト精度調査を実施し、診療録、伝票の記載状況とレセプトの整合性を突合する等の改善を図った。 ○ 長期滞納者への法的措置として、3人に預金口座の強制執行等を実施し、回収に努めた。 ○ 効率的な病床管理による病床利用率の向上及び手術件数の増加により、入院収益は86億7,600万円余で、前年度より8億4,800万円余の増となった。 	2	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設基準の適切な取得や診療報酬請求プロセスの改善に取り組むなど、年度計画どおり収益の確保が図られた。 ○ 一部の指標で目標値を下回っているものの、入院収益の大幅な増加、当期純利益が過去最高となったことなどを評価し、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画			年度計画		
【目標値】《再掲》			【目標値】《再掲》		
指標	福岡市立こども病院		指標	福岡市立こども病院	
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値		平成28年度 実績値	平成30年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）	96,877	99,400	1人1日当たり 入院単価（円）	101,587	102,050
1人1日当たり 外来単価（円）	12,458	11,700	1人1日当たり 外来単価（円）	12,378	12,400
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））	184.4 (78.0)	207.8 (86.9)	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））	205.6 (86.0)	210.3 (88.0)
新規入院患者数（人）	6,038	6,200	新規入院患者数（人）	6,429	6,500
平均在院日数（日）	10.2	11.2	平均在院日数（日）	10.7	10.3
1日当たり 外来患者数（人）	288.9	300.0	1日当たり 外来患者数（人）	329.3	352.5
手術件数（件）	2,447	2,650	手術件数（件）	2,695	2,700
救急搬送件数（件）	1,028	1,050	救急搬送件数（件）	1,178	1,190

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】《再掲》						
		福岡市立こども病院				
指標	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値				
1人1日当たり 入院単価(円)	101,114	107,411				
1人1日当たり 外来単価(円)	12,756	11,645				
1日当たり 入院患者数(人) (病床利用率(%))	212.1 (88.7)	221.6 (92.7)				
新規入院患者数(人)	6,908	7,424				
平均在院日数(日)	10.2	9.9				
1日当たり 外来患者数(人)	358.9	384.8				
手術件数(件)	2,760	3,018				
救急搬送件数(件)	1,332	1,516				

中期目標(項目)	<p>第3 財務内容の改善に関する事項</p> <p>2 収支改善 (1) 収益確保</p>
----------	--

中期計画	年度計画
<p>第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>2 収支改善</p> <p>(1) 収益確保</p> <p>① 診療体制の充実等による医療の高度化に取り組むとともに、効率的な病床管理や高額医療機器の稼働率向上に努め、収入増を図る。</p> <p>② 診療報酬改定等の医療情勢の変化に迅速に対応して適切な施設基準の取得を行い、収入の確保に努める。</p> <p>③ 診療報酬請求に係るチェック体制を強化するとともに、医療費の未収金発生防止や確実な回収に努める。</p>	<p>イ 福岡市民病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 診療報酬改定を踏まえ、急性期入院診療体制のさらなる充実を図るなど、適切な施設基準の取得や維持管理に努める。 ○ 入退院支援体制の充実により、計画的な入院と早期退院を推進するとともに、入院早期からのリハビリテーション提供体制のさらなる充実により、早期離床並びに在院日数の短縮に繋げるなど、効率的な病床管理を図る。 ○ 救急部の受入体制強化を行い、入院や手術を必要とする重篤な救急患者の受入増加を図る。 ○ 手術室、血管造影室等の受入体制、周辺業務の効率化を推進することで、稼働率向上に努め、手術件数増加を図る。 ○ レセプトチェックシステムの定期バージョンアップを引き続き行い、より正確なレセプト請求を行う。また、高額療養費の限度額適用認定証等の事前申請を推進し、患者自己負担金の軽減を図ることにより、未収金発生防止に繋げる。 <p>なお、発生した未収金については、電話及び文書による督促や分納相談等により回収に努めるとともに、回収困難案件については、法律事務所への業務委託を継続し、確実な回収を図る。</p>

中期目標(内容)	<p>診療体制の充実や効率的な病床利用及び高度医療機器の稼働率向上に努めるとともに、診療報酬改定等の医療環境の変化に的確に対応し、安定的な収益の確保に努めること。</p> <p>また、医療費の未収金発生の防止や確実な回収に努めること。</p>
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
<p>イ 福岡市民病院</p> <p>○ 急性期入院医療に係る評価体系に大幅な変更のあった診療報酬改定においては、適切な入院料へ移行するとともに、医療安全対策地域連携加算や抗菌薬適正使用支援加算等の新たな施設基準を適切に取得した結果、約3,000万円の増収が図られた。</p> <p>また、重症患者の増加に伴い、CCU（心療内科系集中治療室）の入院料の類上げ（ハイケアユニット入院医療管理料2⇒1）を行うとともに、看護補助者を増員し、該当する施設基準の類上げを適時行う等、適切な施設基準の取得を行った結果、約3,000万円の増収が図られた。</p> <p>○ 「入退院支援室」を設置し、計画的な入院と円滑な退院を推進するとともに、ICU（集中治療室）内に「早期離床・リハビリテーションチーム」を設置し、ICU入室患者の早期離床を促進するなど効率的な病床管理に取り組んだ結果、病床利用率93.7%、新規入院患者数は4,895人となり、それぞれ前年度を上回った。</p> <p>○ 救急専門医の増員等により救急部の受入体制の強化を図った結果、救急搬送件数が前年度と比較して増加した。また、入院時の重症度を表す救急医療管理加算の算定件数も増加するとともに、DPC（包括医療費支払い制度）救急医療係数も増え（29年度0.00542→30年度0.01103）、それぞれ増収につながった。</p> <p>○ 手術に係る受入体制等について、周辺業務の見直し等の効率化に取り組んだ結果、手術室の稼働率が向上し、手術件数が3,834件と前年度から大きく増加した。特に、循環器内科手術件数447件、脳血管内手術件数103件、脊椎手術件数358件となるなど、難易度が高く高額な手術件数が増加し、入院診療単価が前年度及び目標値を大幅に上回り、増収につながった。</p> <p>○ レセプトチェックシステムのカスタマイズを引き続き行うとともに、各診療科医師との連携を図り、より精度の高いレセプト請求業務を行った。発生した未収金については、電話及び文書による督促や分納相談等により回</p>	2	3	3	<p>○ 適切な施設基準の取得や入退院支援体制の充実により、一部の指標で目標値を下回っているものの、概ね目標値を達成し、収益の確保が図られているため、年度計画を順調に実施していると判断し、「評価3」とする。</p>

中期計画			年度計画		
【目標値】《再掲》			【目標値】《再掲》		
指標	福岡市民病院		指標	福岡市民病院	
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値		平成28年度 実績値	平成30年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）	64,749	67,000	1人1日当たり 入院単価（円）	62,434	65,900
1人1日当たり 外来単価（円）	22,739	18,200	1人1日当たり 外来単価（円）	22,997	20,000
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））	183.7 (90.1)	183.6 (90.0)	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率（%））	181.3 (88.9)	186.7 (91.5)
新規入院患者数（人）	4,510	4,800	新規入院患者数（人）	4,438	4,750
平均在院日数（日）	12.6	12.5	平均在院日数（日）	13.0	12.5
1日当たり 外来患者数（人）	234.2	250.0	1日当たり 外来患者数（人）	229.1	245.0
手術件数（件）	3,060	3,100	手術件数（件）	3,100	3,100
救急搬送件数（件）	2,620	2,800	救急搬送件数（件）	2,670	2,800

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価																														
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																													
<p>収を行うとともに、回収困難案件については、法律事務所への業務委託を継続し、確実な回収を図った。</p> <p>【実績値】《再掲》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標</th> <th colspan="2">福岡市民病院</th> </tr> <tr> <th>平成29年度 実績値</th> <th>平成30年度 実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1人1日当たり 入院単価(円)</td> <td>64,141</td> <td>67,382</td> </tr> <tr> <td>1人1日当たり 外来単価(円)</td> <td>20,907</td> <td>22,569</td> </tr> <tr> <td>1日当たり 入院患者数(人) (病床利用率(%))</td> <td>189.7 (93.0)</td> <td>191.1 (93.7)</td> </tr> <tr> <td>新規入院患者数(人)</td> <td>4,709</td> <td>4,895</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数(日)</td> <td>12.6</td> <td>12.4</td> </tr> <tr> <td>1日当たり 外来患者数(人)</td> <td>226.8</td> <td>232.6</td> </tr> <tr> <td>手術件数(件)</td> <td>3,534</td> <td>3,834</td> </tr> <tr> <td>救急搬送件数(件)</td> <td>3,011</td> <td>3,130</td> </tr> </tbody> </table>	指標	福岡市民病院		平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	1人1日当たり 入院単価(円)	64,141	67,382	1人1日当たり 外来単価(円)	20,907	22,569	1日当たり 入院患者数(人) (病床利用率(%))	189.7 (93.0)	191.1 (93.7)	新規入院患者数(人)	4,709	4,895	平均在院日数(日)	12.6	12.4	1日当たり 外来患者数(人)	226.8	232.6	手術件数(件)	3,534	3,834	救急搬送件数(件)	3,011	3,130				
指標		福岡市民病院																															
	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値																															
1人1日当たり 入院単価(円)	64,141	67,382																															
1人1日当たり 外来単価(円)	20,907	22,569																															
1日当たり 入院患者数(人) (病床利用率(%))	189.7 (93.0)	191.1 (93.7)																															
新規入院患者数(人)	4,709	4,895																															
平均在院日数(日)	12.6	12.4																															
1日当たり 外来患者数(人)	226.8	232.6																															
手術件数(件)	3,534	3,834																															
救急搬送件数(件)	3,011	3,130																															

中期目標(項目)	<p>第3 財務内容の改善に関する事項</p> <p>2 収支改善 (2) 費用削減</p>
----------	--

中期計画	年度計画
<p>第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>2 収支改善</p> <p>(2) 費用削減</p> <p>① 診療材料や医薬品等の調達に係る価格交渉の徹底, 契約手法や委託業務の見直し及びジェネリック医薬品の使用拡大等を行い, 費用の削減を図る。</p> <p>② 両病院とも, 適切に施設・設備のアセットマネジメントを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 診療材料の同種同効品への切り替えや, ジェネリック医薬品の使用拡大により価格低減を図るとともに, 経費全般においても価格交渉の徹底や契約手法の見直しに努め, 削減を図る。 また, 経費節減にあたっては, 民間企業の取組み等も参考にしながら, 事務部が主体となって, 院内各部署からのアイデアを取りまとめる仕組みについて検討する。 ○ 委託契約の見直しの一つとして, 電話交換業務委託業者の選定を新たに行い, 費用削減を図る。 ○ こども病院においては, 平成29年度から, SPD業務の見直しを図り, 従来の物品管理業務に加え調達業務も委託する内容に変更しており, この4年間で購入価格の必達削減額を目指し, 引き続き委託業者と協力しながら, さらなる費用削減に取り組む。 ○ 市民病院においては, 中長期修繕計画に基づき, 施設・設備の長寿命化や投資の平準化を図るとともに, 省エネ対策のさらなる検討・取組みを行うことにより, 維持修理に係る費用の削減を図る。

中期目標(内容)	<p>地方独立行政法人の会計制度に基づいた効果的・効率的な事業運営に努めるとともに、効果的な費用の削減に努めること。</p> <p>また、計画的な維持修理による施設の長寿命化と投資の平準化、施設運営・保守管理の効率化などのアセットマネジメントを推進すること。</p>
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
<p>○ 診療材料の同種同効品への切替えや、ジェネリック医薬品の使用拡大により価格低減を図るとともに、経費全般においても価格交渉の徹底、契約手法の見直しに努め、削減を図った。</p> <p>○ 福岡市立こども病院においては、施設の維持管理を行うPFI事業者と協議しながら、計画的な修繕を行った。 また、診療材料について、積極的にSPD(医療製品物流管理)受託業者と連携・協力し、さらなる価格交渉を徹底したほか、電話交換等業務委託の仕様等業務内容を精査し、経費削減につなげた。</p> <p>○ 福岡市民病院においては、SPD導入により蓄積された購買データを活用した診療材料の価格交渉等に努めた。 また、中長期修繕計画に基づき、非常用発電装置のバッテリーとなる直流電源装置や中央監視装置の更新を行うとともに、病院本館の空調装置である吸収式冷温水発生装置3台の更新工事に着手した。 さらに、省エネ対策として、平成29年度に引き続き、病棟ナースステーション照明のLED化を行う等、維持修理に係る費用の削減を図った。</p>	2	3	3	<p>○ 診療材料の価格交渉など経費削減に努めるとともに、福岡市民病院においては、設備の長寿命化や投資の平準化、省エネ対策等に取り組むなど効果的な費用削減に努め、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。</p>

中期計画			年度計画		
【目標値】 (単位：%)			【目標値】 (単位：%)		
指標	福岡市立こども病院		指標	福岡市立こども病院	
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値		平成28年度 実績値	平成30年度 目標値
給与費対医業収益比率	58.7	60.4	給与費対医業収益比率	54.3	59.4
材料費対医業収益比率	21.1	19.6	材料費対医業収益比率	19.8	19.8
うち薬品費対医業収益比率	8.0	7.4	うち薬品費対医業収益比率	6.8	7.5
うち診療材料費対医業収益比率	12.9	11.9	うち診療材料費対医業収益比率	12.3	12.0
委託費対医業収益比率	9.9	10.2	委託費対医業収益比率	9.2	10.0
ジェネリック医薬品導入率	47.4	80.0	ジェネリック医薬品導入率 ※ (81.8)	15.6 (81.8)	85.0
			※ジェネリック医薬品導入率は品目数の割合で算出しているが、参考として()内に数量による割合を記載している。以下同じ。		
【目標値】 (単位：%)			【目標値】 (単位：%)		
指標	福岡市民病院		指標	福岡市民病院	
	平成27年度 実績値	平成32年度 目標値		平成28年度 実績値	平成30年度 目標値
給与費対医業収益比率	55.6	55.7	給与費対医業収益比率	59.9	57.3
材料費対医業収益比率	30.0	24.2	材料費対医業収益比率	29.1	27.0
うち薬品費対医業収益比率	12.4	8.6	うち薬品費対医業収益比率	11.8	8.8
うち診療材料費対医業収益比率	17.5	15.5	うち診療材料費対医業収益比率	17.2	18.1
委託費対医業収益比率	6.4	7.0	委託費対医業収益比率	7.0	7.5
ジェネリック医薬品導入率	69.3	83.0	ジェネリック医薬品導入率 (87.6)	34.1 (87.6)	85.0

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)		自己評価		市長の評価																								
		ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																							
<p>【実績値】 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標</th> <th colspan="2">福岡市立こども病院</th> </tr> <tr> <th>平成29年度 実績値</th> <th>平成30年度 実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給与費対医業収益比率</td> <td>52.2</td> <td>53.6</td> </tr> <tr> <td>材料費対医業収益比率</td> <td>19.8</td> <td>17.9</td> </tr> <tr> <td> うち薬品費対医業収益比率</td> <td>7.3</td> <td>5.9</td> </tr> <tr> <td> うち診療材料費対医業収益比率</td> <td>12.3</td> <td>11.7</td> </tr> <tr> <td>委託費対医業収益比率</td> <td>9.2</td> <td>8.9</td> </tr> <tr> <td>ジェネリック医薬品導入率</td> <td>92.0</td> <td>85.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。以下同じ。</p>						指標	福岡市立こども病院		平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	給与費対医業収益比率	52.2	53.6	材料費対医業収益比率	19.8	17.9	うち薬品費対医業収益比率	7.3	5.9	うち診療材料費対医業収益比率	12.3	11.7	委託費対医業収益比率	9.2	8.9	ジェネリック医薬品導入率	92.0	85.0
指標	福岡市立こども病院																											
	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値																										
給与費対医業収益比率	52.2	53.6																										
材料費対医業収益比率	19.8	17.9																										
うち薬品費対医業収益比率	7.3	5.9																										
うち診療材料費対医業収益比率	12.3	11.7																										
委託費対医業収益比率	9.2	8.9																										
ジェネリック医薬品導入率	92.0	85.0																										
<p>【実績値】 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標</th> <th colspan="2">福岡市民病院</th> </tr> <tr> <th>平成29年度 実績値</th> <th>平成30年度 実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給与費対医業収益比率</td> <td>54.5</td> <td>56.4</td> </tr> <tr> <td>材料費対医業収益比率</td> <td>27.7</td> <td>28.7</td> </tr> <tr> <td> うち薬品費対医業収益比率</td> <td>9.2</td> <td>9.2</td> </tr> <tr> <td> うち診療材料費対医業収益比率</td> <td>18.5</td> <td>19.5</td> </tr> <tr> <td>委託費対医業収益比率</td> <td>7.4</td> <td>7.1</td> </tr> <tr> <td>ジェネリック医薬品導入率</td> <td>86.6</td> <td>88.6</td> </tr> </tbody> </table>						指標	福岡市民病院		平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	給与費対医業収益比率	54.5	56.4	材料費対医業収益比率	27.7	28.7	うち薬品費対医業収益比率	9.2	9.2	うち診療材料費対医業収益比率	18.5	19.5	委託費対医業収益比率	7.4	7.1	ジェネリック医薬品導入率	86.6	88.6
指標	福岡市民病院																											
	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値																										
給与費対医業収益比率	54.5	56.4																										
材料費対医業収益比率	27.7	28.7																										
うち薬品費対医業収益比率	9.2	9.2																										
うち診療材料費対医業収益比率	18.5	19.5																										
委託費対医業収益比率	7.4	7.1																										
ジェネリック医薬品導入率	86.6	88.6																										

中期目標(項目)	<p>第4 その他業務運営に関する重要事項</p> <p>1 福岡市立こども病院における医療機能の充実</p>
----------	---

中期計画	年度計画
<p>第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 福岡市立こども病院における医療機能の充実</p> <p>中核的な小児総合医療施設としての役割を果たすため、高度小児医療、小児救急医療及び周産期医療のさらなる充実を図るとともに、治験や臨床データ解析等の臨床研究、国際的な視野に立った職員の人材育成等に積極的に取り組み、小児・周産期医療の発展に貢献する。</p> <p>また、新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ、引き続き病床の適切な運用やさらなる確保を目指した取組みを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 臨床研究部において、臨床研究や検証的臨床試験に積極的に取り組み、小児・周産期医療の発展や新薬の開発に貢献する。 ○ 国際医療支援センターを中心に、職員の外国語能力・コミュニケーション能力の向上を目指して、研修活動等を行う。 ○ 高度医療を行う小児総合医療施設として患者の治療・救命に全力を尽くすとともに、患者・家族の選択肢の一つとして、臓器提供の申し出がなされた際は円滑に対応できるよう、院内の体制確立に向け必要な取組みを行う。 ○ 高度専門医療を提供するための先進的な医療の開発や研究、及びその為の人材育成や院内療養環境の整備、ふくおかハウスにおける将来的な改修費用等に係る資金確保が図られるよう、個人や企業からの支援確保に向け積極的な情報発信や働きかけを行っていく。 ○ 新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ、引き続き病床の適切な運用等に係る取組みを進める。

中期目標(内容)	<p>小児医療，周産期医療を取り巻く状況や医療環境の変化等を踏まえ，福岡市立こども病院に求められる役割を果たせるよう，中核的な小児総合医療施設としての医療機能の充実を図ること。</p> <p>また，新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ，引き続き病床の適切な運用やさらなる確保を目指した取組みを進めること。</p>
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
<ul style="list-style-type: none"> ○ 厚生労働省DPC公開データにおいて，川崎病センター（208例→220例）及び先天性心疾患に係る手術症例（108例→121例）について，成人を含む全国のDPC病院の中で症例数が3年連続で全国一位となった。 また，股関節先天性疾患（31例→43例）については全国二位，脊椎手術症例（205例→219例）及び先天性下部尿路疾患（65例→78例）については全国三位となる等，順調に成果を挙げた。 ○ 臨床研究について，日本医療研究開発機構（AMED）の継続課題や，科研費（文部科学省）で新たに採択された課題等に積極的に取り組み，共同研究を含め8件の研究に参加した。 また，治験業務についても強化・充実を図り，アクティブプロトコル数は27件（うち新規9件）となった。 ○ 職員の外国語能力・コミュニケーション能力の向上のため，国際医療支援センターを中心に，研修活動等の強化を図った（英語研修11回，中国語研修5回）。 ○ 臓器提供の申し出がなされた際に円滑に対応できるよう，日本臓器移植ネットワーク主催研修への職員の派遣や，手術室を用いた実地シミュレーション等，院内の体制整備に取り組んだ。 ○ 高度専門医療を提供するための先進的な医療の開発及び研究並びにその為の人材育成や院内療養環境の整備に取り組むとともに，ふくおかハウスにおける将来的な改修費用等に係る資金確保策として，支援自動販売機を院内及び福岡市総合体育館に，くるくるコイン募金箱を院内（外来）に設置した。 ○ 職員が診療・ケアに関して日常的に遭遇する倫理的な価値判断が困難な案件について，多職種で協議・検討，助言する「倫理コンサルテーションチーム」の発足に向け検討を進めた。 ○ 新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ，NICUやGCUなど必要性の高い周産期病床の再編成を行った。 	2	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 臨床研究や治験業務に積極的に取り組み，小児・周産期医療の発展や新薬の開発に貢献するなど，年度計画どおり医療機能の充実が図られた。 ○ 川崎病センターの症例数や先天性心疾患に係る手術症例数が，3年連続全国一となったほか，股関節先天性疾患など他の5つの疾患で全国トップレベルの成果を挙げたことを評価し，年度計画を上回って実施していると判断されるため，「評価4」とする。

中期目標(項目)	<p>第4 その他業務運営に関する重要事項</p> <p>2 福岡市民病院における経営改善の推進</p>
----------	--

中期計画	年度計画
<p>第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置</p> <p>2 福岡市民病院における経営改善の推進</p> <p>① 高度専門医療，高度救急医療及び感染症医療を提供するなど，市立病院として求められる役割を果たすとともに，経営の効率化に努める。</p> <p>また，地域医療計画における当院の立場を十分に認識し，地域包括ケアシステムの中で急性期病院が果たすべき役割について必要な取組みを行う。</p> <p>② 将来的な市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえながら，施設・設備の計画的な維持管理に取り組む。</p>	<p>○ 公立病院に求められる，高度専門医療，高度救急医療及び感染症医療を提供するため，医療資源の効率的な活用を図り，収益の増加と費用の削減による収支改善に努める。</p> <p>また，他医療機関において対応が困難な救急患者の受入や，在宅患者の緊急時入院受入等を積極的に行い，地域包括ケアシステムにおける地域の基幹病院としての役割を果たす。</p> <p>○ 中長期修繕計画に基づき，施設・設備の長寿命化や投資の平準化を図るとともに，将来的な市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえ，当該計画を適宜見直し，施設・設備の適切な維持管理に取り組む。</p>

中期目標 (内容)	<p>福岡市民病院については、平成27年度に総務省から優良事例として選定されるなど、地方独立行政法人化後の第1期・第2期にわたり、順調にその経営改善が図られたところであるが、引き続き福岡市の厳しい財政状況を踏まえ、経営の効率化に努めること。</p> <p>また、将来的な市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえながら、既存の施設・設備の計画的な維持管理に取り組むこと。</p>
--------------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
<p>○ 市立病院として求められる役割を果たすため、高度専門医療、高度救急医療及び感染症医療に必要な医療資源（人的・物的）の投入を適切に行った。</p> <p>これにより、診療体制や医療機能をより充実させ、医業収益も大幅に増収となった。</p> <p>また、福岡市からの運営費負担金を縮減した計画の中で、職員一丸となって材料費等の費用削減に取り組んだ結果、3,800万円余の経常利益を確保することが出来た。</p> <p>さらに、患者本位の医療を提供するため、医療安全対策や院内感染対策等においても、院長の強いリーダーシップのもと、地域における他施設との連携、多職種協働や職員の意識向上を図るなど、さらなる充実に取り組んだ。</p> <p>○ 地域医療支援病院として、かかりつけ医との連携による紹介患者に対する高度専門医療の提供、大型医療機器の共同利用の推進、救急搬送の受入強化や地域の医療従事者に対する研修会の開催など、地域の医療水準全体の底上げを目標とした諸活動を継続して行った。</p> <p>また、博多区医師会との連携を密に行い、在宅医療に係る後方支援病院として、在宅患者の緊急時の積極的な受入れや、在宅医を始めとした地域の在宅医療を担う医療従事者向けの研修等を実施するなど、地域包括ケアシステムにおける博多区の基幹病院としての役割を着実に果たした。</p> <p>○ 中長期修繕計画に基づき、非常用発電装置のバッテリーとなる直流電源装置や各種設備の集中的に管理する中央監視装置の更新を行うとともに、病院本館の空調装置である吸収式冷温水発生装置3台の更新工事に着手した。また、看護部を中心としたワーキングチームを立ち上げ、外来及び病棟の患者用トイレ・浴室・洗面台の改修に係る検討を開始した。</p>	2	3	3	<p>○ 必要な医療資源投入、費用削減の取組みにより、経常利益を確保するとともに、地域医療支援病院として、地域の医療水準全体の底上げに寄与するなど、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。</p>

第5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1 予算（平成30年度）

（単位：百万円）

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算－予算)
収 入			
営 業 収 益	16,205	17,466	1,261
医 業 収 益	14,752	15,995	1,244
運 営 費 負 担 金 収 益	1,276	1,276	△ 0
補 助 金 等 収 益	93	113	21
寄 附 金 収 益	10	12	2
受 託 収 入	75	69	△ 5
営 業 外 収 益	234	263	30
運 営 費 負 担 金 収 益	107	107	0
補 助 金 等 収 益	5	1	△ 4
そ の 他 営 業 外 収 益	122	156	33
資 本 収 入	617	617	0
長 期 借 入 金	—	—	—
運 営 費 負 担 金	617	617	0
補 助 金 等	—	—	—
そ の 他 収 入	—	—	—
計	17,055	18,346	1,290
支 出			
営 業 費 用	14,793	14,760	△ 110
医 業 費 用	14,620	14,604	△ 92
給 与 費	8,540	8,380	△ 160
材 料 費	3,602	3,809	131
経 費	2,362	2,332	△ 30
資 産 減 耗 費	—	—	—
研 究 研 修 費	117	83	△ 33
一 般 管 理 費	173	156	△ 18
給 与 費	111	117	6
経 費	63	39	△ 24
営 業 外 費 用	206	214	8
資 本 支 出	2,732	2,309	△ 423
建 設 改 良 費	1,064	640	△ 423
償 還 金	1,669	1,669	△ 0
そ の 他 の 支 出	0	—	△ 0
計	17,732	17,283	△ 525

（注）計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

2 収支計画（平成30年度）

（単位：百万円）

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算-予算)
収 益 の 部	16,979	18,242	1,263
営 業 収 益	16,745	17,989	1,244
医 業 収 益	14,752	15,979	1,227
運 営 費 負 担 金 収 益	1,276	1,276	△ 0
補 助 金 等 収 益	93	113	21
寄 附 金 収 益	10	12	2
資 産 見 返 負 債 戻 入	541	546	5
受 託 収 入	75	64	△ 11
営 業 外 収 益	234	253	19
運 営 費 負 担 金 収 益	107	107	0
そ の 他 営 業 外 収 益	127	145	19
臨 時 利 益	—	—	—
費 用 の 部	16,873	17,060	187
営 業 費 用	16,667	16,846	178
医 業 費 用	16,305	16,058	△ 247
給 与 費	8,636	8,738	103
材 料 費	3,602	3,517	△ 85
経 費	2,366	2,173	△ 193
減 価 償 却 費	1,583	1,550	△ 33
資 産 減 耗 費	1	1	0
研 究 研 修 費	117	78	△ 38
一 般 管 理 費	175	148	△ 27
そ の 他 営 業 費 用	187	639	452
営 業 外 費 用	206	214	8
臨 時 損 失	0	—	△ 0
純 利 益	106	1,182	1,076
目 的 積 立 金 取 崩 額	—	—	—
総 利 益	106	1,182	1,076

（注）計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

3 資金計画（平成30年度）

（単位：百万円）

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算－予算)
資 金 収 入	21,523	22,121	598
業務活動による収入	16,439	17,933	1,495
診療業務による収入	14,752	16,230	1,478
運営費負担金による収入	1,383	1,383	△ 0
その他の業務活動による収入	304	320	16
投資活動による収入	617	1,852	1,235
運営費負担金による収入	617	617	0
その他の投資活動による収入	—	1,235	1,235
財務活動による収入	—	—	—
長期借入れによる収入	—	—	—
その他の財務活動による収入	—	—	—
前事業年度からの繰越金	4,468	2,336	△ 2,131
資 金 支 出	21,523	22,121	598
業務活動による支出	15,000	15,037	37
給与費支出	8,650	8,510	△ 141
材料費支出	3,602	3,564	△ 38
その他の業務活動による支出	2,748	2,963	216
投資活動による支出	959	1,749	790
有形固定資産取得による支出	959	510	△ 449
無形固定資産取得による支出	—	12	12
その他の投資活動による支出	—	1,227	1,227
財務活動による支出	1,773	1,771	△ 2
長期借入金の返済による支出	1,241	1,241	0
移行前地方債償還債務の償還による支出	428	428	0
その他の財務活動による支出	104	102	△ 2
翌事業年度への繰越金	3,792	3,564	△ 227

（注）計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているもので、端数において合計とは一致しないものがある。

第6 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実績
1 限度額 2,000百万円 2 想定される短期借入金の発生事由 ア 業績手当（賞与）の支給等による一時的な資金不足への対応 イ 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等，偶発的な出費への対応	1 限度額 2,000百万円 2 想定される短期借入金の発生事由 ア 業績手当（賞与）の支給等による一時的な資金不足への対応 イ 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等，偶発的な出費への対応	該当なし

第7 重要な財産を譲渡し，又は担保に供する計画

中期計画	年度計画	実績
重要な財産を譲渡する計画 土地（福岡市中央区唐人町二丁目133番2 面積16,925.85平方メートル）を譲渡する。	なし	該当なし

第8 剰余金の使途

中期計画	年度計画	実績
決算において剰余を生じた場合は，病院施設の整備，医療機器の購入，教育・研修体制の充実等に充てる。	決算において剰余を生じた場合は，病院施設の整備，医療機器の購入，教育・研修体制の充実等に充てる。	平成30年度は，決算において剰余を生じたので，令和元年度以降における病院施設の整備，医療機器の購入，教育・研修体制の充実等に充てる予定である。

第9 地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項

中期計画	年度計画	実 績																		
<p>1 施設及び設備に関する計画 (平成29年度から令和2年度まで)</p> <p style="text-align: center;">(単位：百万円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">施設及び設備 の内容</th> <th style="text-align: center;">予定額</th> <th style="text-align: center;">財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">病院施設, 医療 機器等整備</td> <td style="text-align: center;">4,573</td> <td style="text-align: center;">福岡市長期借 入金等</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 人事に関する計画</p> <p>人事評価の改善に引き続き取り組むとともに、教育・研修体制の充実等により、職員のモチベーションの維持・向上を図る。</p> <p>また、適材適所を基本とした柔軟な人事配置を行うとともに、有期職員の活用やアウトソーシングの検討を積極的に行い、効果的・効率的な組織運営体制の構築を図る。</p>	施設及び設備 の内容	予定額	財源	病院施設, 医療 機器等整備	4,573	福岡市長期借 入金等	<p>1 施設及び設備に関する計画 (平成30年度)</p> <p style="text-align: center;">(単位：百万円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">施設及び設備 の内容</th> <th style="text-align: center;">予定額</th> <th style="text-align: center;">財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">病院施設, 医療 機器等整備</td> <td style="text-align: center;">1,064</td> <td style="text-align: center;">前中期目標期間 繰越積立金等</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 人事に関する計画</p> <p>人事評価の改善に引き続き取り組むとともに、教育・研修体制の充実等により、職員のモチベーションの維持・向上を図る。</p> <p>また、適材適所を基本とした柔軟な人事配置を行うとともに、有期職員の活用やアウトソーシングの検討を積極的に行い、効果的・効率的な組織運営体制の構築を図る。</p>	施設及び設備 の内容	予定額	財源	病院施設, 医療 機器等整備	1,064	前中期目標期間 繰越積立金等	<p>1 施設及び設備に関する計画 (平成30年度)</p> <p style="text-align: center;">(単位：百万円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">施設及び設備 の内容</th> <th style="text-align: center;">決定額</th> <th style="text-align: center;">財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">病院施設, 医療 機器等整備</td> <td style="text-align: center;">640</td> <td style="text-align: center;">前中期目標期間 繰越積立金等</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 人事に関する計画</p> <p>医師以外の管理職を対象とする管理職目標管理制度について、将来的には職員の業績や貢献度等を給与に反映できるよう、制度の検討に引き続き取り組んだ。</p> <p>また、マネジメント能力向上等を目的として、管理監督者研修を2回開催したほか、事務職員の効果的・効率的な人材育成を図る観点から、外部機関等への派遣研修の実施について検討を進めた。</p> <p>各病院においても外部講師の活用による院内研修の実施や外部研修の受講を推進するなど研修体制の充実に努めた。</p> <p>人材育成や組織の活性化を図るため、適材適所の人事配置に努めたほか、育休代替等を含め、有期職員を福岡市立こども病院に149人、福岡市民病院に107人及び運営本部に3人配置するなど、効果的・効率的な組織運営を推進した。</p> <p>※有期職員の人数は平成30年5月1日現在</p>	施設及び設備 の内容	決定額	財源	病院施設, 医療 機器等整備	640	前中期目標期間 繰越積立金等
施設及び設備 の内容	予定額	財源																		
病院施設, 医療 機器等整備	4,573	福岡市長期借 入金等																		
施設及び設備 の内容	予定額	財源																		
病院施設, 医療 機器等整備	1,064	前中期目標期間 繰越積立金等																		
施設及び設備 の内容	決定額	財源																		
病院施設, 医療 機器等整備	640	前中期目標期間 繰越積立金等																		

地方独立行政法人福岡市立病院機構 業務実績評価の方針

地方独立行政法人法（以下「法」という。）第28条第1項各号の規定に基づき、福岡市長（以下「市長」という。）が実施する地方独立行政法人福岡市立病院機構（以下「法人」という。）の業務実績に関する評価（以下「評価」という。）については、以下の方針に基づき行うものとする。

1 基本方針

- (1) 評価は、法人が中期目標を達成するために、業務運営の改善及び効率化が進められること及び法人の質的向上に資することを目的として行うものとする。
- (2) 評価は、年度計画及び中期計画の実施状況を確認及び分析し、法人の業務運営等について総合的に判断して行うものとする。
- (3) 年度計画及び中期計画を実現するために、法人として特色ある取組や様々な工夫を行った場合は積極的に評価することとし、単に実績数値にとらわれないものとする。
- (4) 評価方法については、法人を取り巻く環境変化などを踏まえ、柔軟に対応するとともに、必要に応じて見直しを行うものとする。

2 評価方法

(1) 法人からの報告書の提出

法人は、各事業年度の終了後3月以内に、法第28条第2項及び地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則第8条に定める報告書（以下「業務実績報告書」という。）を市長に提出するものとする。

(2) 評価の実施

市長は、提出された業務実績報告書をもとに、法人からの意見聴取等を踏まえて業務の実施状況を確認及び分析し、別途、実施要領で定める項目を評価単位とする「項目別評価」と、それを踏まえた「全体評価」により評価を行うものとする。

評価は、毎事業年度の終了後に実施する「年度評価」、中期目標の期間の最後の事業年度の直前の事業年度の終了後に実施する「中期目標期間見込評価」及び中期目標の期間の最後の事業年度の終了後に実施する「中期目標期間評価」とする。

① 年度評価

当該事業年度における業務の実績について「項目別評価（小項目評価及び大項目評価）」を行う。また、「項目別評価」の結果を踏まえ、当該事業年度における業務の実績全体について総合的に「全体評価」を行う。

② 中期目標期間見込評価

中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績について「項目別評価（大項目評価）」を行う。また、「項目別評価」の結果を踏まえ、当該中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績全体について総合的に「全体評価」を行う。

③ 中期目標期間評価

中期目標の期間における業務の実績について「項目別評価（大項目評価）」を行う。また、「項目別評価」の結果を踏まえ、当該中期目標の期間における業務の実績全体について総合的に「全体評価」を行う。

3 評価結果等の活用

- (1) 法人は、法第28条第6項に基づく業務運営の改善等の措置を受けた場合、自主的に必要な措置をとるとともに、法第29条に基づき、評価の結果を、中期計画及び年度計画並びに業務運営の改善に適切に反映させる。
- (2) 次期中期目標の策定、次期中期計画の認可及び法人の業務の継続又は組織の存続の必要性等に関する検討に関して、評価委員会が意見を述べる際には、中期目標の期間の各事業年度の評価結果を踏まえるものとする。

4 適用時期

この方針は、平成30年度に実施する業務実績評価から適用する。

地方独立行政法人福岡市立病院機構 年度業務実績評価実施要領

地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、福岡市長（以下「市長」という。）が地方独立行政法人福岡市立病院機構（以下「法人」という。）の各事業年度における業務の実績に関する評価（以下「年度評価」という。）を実施するにあたっては、「地方独立行政法人福岡市立病院機構業務実績評価の方針（平成30年6月22日決定）」に基づき、以下の要領により実施する。

1 評価区分

(1) 全体評価

当該事業年度における業務の実績全体について評価を行う。

(2) 項目別評価

① 大項目評価

法第25条第2項第2号から第5号の各号に基づき、中期目標に掲げる第1から第4の事項について評価を行う。

② 小項目評価

大項目評価で定める評価区分に基づき、別表で定める事項について評価を行う。

2 評価結果の公表

評価の結果は、評価区分ごとに評価結果報告書（別紙1のとおり）にとりまとめ公表する。

3 評価方法

(1) 法人の自己評価

法人は、中期計画及び年度計画の実施状況等が明らかになるよう、小項目ごとの当該事業年度における業務の実績をできる限り定量的に記載するとともに、次の5段階で自己評価を行い、判断理由等を記載した業務実績報告書（別紙2のとおり）を作成する。法人は、各小項目に市立病院としての役割や年度計画の重要度合いを考慮して、ウエイトを設定するものとする。

なお、業務の実績には、病院ごとの実績がわかるよう工夫し、特記事項として、特色ある取組、法人運営を円滑に進めるための工夫、今後の課題などを自由に記載するものとし、自己評価は、病院の自己点検に基づき、法人として行うものとする。

- 評価５・・・年度計画を大幅に上回って実施している。
- 評価４・・・年度計画を上回って実施している。
- 評価３・・・年度計画を順調に実施している。
- 評価２・・・年度計画を十分に実施できていない。
- 評価１・・・年度計画を大幅に下回っている。

(2) 項目別評価

① 小項目評価

市長は、業務実績報告書記載の法人の自己評価を踏まえ、小項目ごとの当該事業年度における業務の実績について、次の５段階による評価を行う。その際、単に目標値及び前年度数値と当該年度の実績値の比較だけでなく、中期計画を達成するために効果的な取組が行われているかどうかなど、総合的に判断するとともに評価の判断理由等を記載する。

その他、必要に応じて、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

- 評価５・・・年度計画を大幅に上回って実施している。
- 評価４・・・年度計画を上回って実施している。
- 評価３・・・年度計画を順調に実施している。
- 評価２・・・年度計画を十分に実施できていない。
- 評価１・・・年度計画を大幅に下回っている。

② 大項目評価

市長は、小項目評価の結果を踏まえ、大項目ごとの当該事業年度における業務の実績について、次の５段階による評価を行う。評価に当たっては、小項目評価の１～５をそれぞれ１点～５点とし、ウエイト換算後の合計を評価点、すべての小項目評価が３の場合の合計を標準点とし、標準点に対する評価点の割合（％）により評価を行うものとする。

また、特筆すべき小項目評価やその他考慮すべき事項がある場合、判断理由を記載する。

- 評価Ｓ：中期計画の実現に向けて、特筆すべき進捗状況にある
(市長が特に認める場合)
- 評価Ａ：中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる
(評価点が標準点の１２０％以上)

評価B：中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる
(評価点が標準点の100%以上120%未満)

評価C：中期計画の実現のためにはやや遅れている
(評価点が標準点の100%未満)

評価D：中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある
(市長が特に認める場合)

(3) 全体評価

市長は、項目別評価の結果を踏まえ、当該事業年度における業務の実績全体について、記述式による評価を行う。

全体評価においては、病院改革の取組(法人運営における業務運営の改善・効率化、財務内容の改善など)を積極的に評価するものとする。

その評価にあたり、項目別評価の結果及びその判断理由とともに、主な取組や特色ある取組及び特に優れている点など特筆すべき取組について記載するものとする。

また、評価に際し改善すべき事項がある場合は記載する。

4 適用時期

この要領は、平成30年度に実施する業務実績評価から適用する。

(別表) 項目別評価

大項目	小項目	
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	1 医療サービス	(1) 良質な医療の実践
		(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進
		(3) 災害時等の迅速かつ的確な対応
	2 患者サービス	(1) 患者サービスの向上
		(2) 情報発信
	3 医療の質の向上	(1) 病院スタッフの確保と教育・研修
(2) 信頼される医療の実践		
第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	
	2 事務部門の機能強化	
	3 働きがいのある職場環境づくり	
	4 法令遵守と公平性・透明性の確保	
第3 財務内容の改善に関する事項	1 経営基盤の強化	(1) 経営基盤の強化と運営費負担金の縮減
		(2) 投資財源の確保
	2 収支改善	(1) 収益確保
		(2) 費用削減
第4 その他業務運営に関する重要事項	1 福岡市立こども病院における医療機能の充実	
	2 福岡市民病院における経営改善の推進	